



Cheajapan

チア・にっぽん CHEA Japan

NEWS LETTER 134号 2013年2月

〒189 0013

東京都東村山市榮町1-5-4-103

TEL 042・318・1807

FAX 03・6862・8648

http://www.cheajapan.com

「あなたは…わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなる者としよう。あなたの名は祝福となる。」

(創世記12：1、2)

ハレルヤ！ 新年もどうぞ、よろしくお願いします。

皆さんに祈っていただきました白馬セミナー、今回も、恵みと祝福のうちに終えることができました。「9回、参加していますが、今回が一番良かったと家族全員言ってます。(毎年、家族から、その声が出ますが、、記録更新中!)」といったうれしいコメント、たくさんいただきました。ありがとうございました。白馬最終日には、チアの皆さんを特別に愛し、応援くださっていたポール・ブローマンさんが未明に召天されたとの連絡が入り、涙しました。翌日の火葬、そして、12月のメモリアルデーに参列できました。共に、伝道メッセージと希望に満ちたポールさんらしい式となり、チアの皆さんとの帰りの団体バスは、数時間にわたっての、思い出の証し会となりました。またメモリアル当日、何人かの方々がイエス様を信じる決心をされたとのことで、それも感謝です。

今年も、神様のあわれみの中、皆さんと共に、主の導きに従い、限られた人生の時間を、効果的に歩いていければと祈っています。皆さんの上に、ますますの祝福を祈っています。今年もどうぞ、よろしくお願いします。

チア・にっぽん代表 稲葉 寛夫



(写真左) チアの皆さんを愛したポール・ブローマンさん、天国へ！

(写真右) 白馬セミナー、恵みと祝福の中で終える！  
— 雪の白馬で家族&教育の聖書への回復へ！

白馬セミナー、「天国にいるみたい！」  
「神様がチアに期待されている！」

— あわれみと祝福の中で終える！

白馬セミナー、神様の恵みとあわれみの中、祝福

のうちに終えることができました！ 「9回、参加していますが、今回が一番良かったと家族全員言ってます。(毎年、家族から、その声が出ますが、、記録更新中!)」 「初めて参加しました。天国にいるみたいだとみんなで言っていました。とてもうれしく、



励まされ、良かったです」「このセミナーが実現するのに、どれだけの労が積まれたことか、想像に及びません。神様がチアに大きな期待をされていること、私たちが、チアの働きを通して神様から期待されていることを感じる事ができました。日々、変えられたい、今すぐにでも大きな変化を与えられたいと願い、祈り続けたいです。希望を失わずに」「セミナー中に召天されたポール・ブローマンさん、その中にもあってはチルミニや講演に来てくださった丸森の皆さん、高熱の稲葉さん、他にも大変、つらい状況の中で参加された方々にあつく感謝します」。こうしたコメントの数々。とても感謝な3日間を、神様と皆さんのおかげで、今回も過ごすことができました。ハレルヤ！（皆さんからの声は、23～25ページを参照ください）

### 苦難をくぐり抜けてきた講演者たち

今回の基調講演者のデービス&レイチェル・カーマン夫妻は、期待どおり、聖書に立って、クリアに、また、祝福に満ちた模範の秘訣を示してくださいました。日本に迎えてからわかったことは、「(レイチェル) 大学まで識字障害に苦しんだの。その苦しみも体験したから、教師をしている時も、学習障害や引きこもり等、苦しむ子どもたちを専任していました。また、長男も、私と同じ障害に苦しみました。でも神様の恵みの中で、ホームスクーリングが祝福され、今、大学で喜んで学んでいます」とのこと。著名な子育て本も出版しつつ、6人のホームスクーリングを続けている多才なレイチェルさんですが、苦難で練られた品格と明るさに満ちた講演が、共感を呼んでいました。デービスさんも、創造論に立つ出版社の救済や経営の試練などでも鍛えられた品性と、どっしりした信仰で明晰であたたかいセッション。また、初めて、学習障害にスポットを当てたジョイス・イノウエさんへの反響も大きく、多くの方々が励まされたとコメントくださいました。日本からの各講師陣もとても好評です。CD等で聞けますので、是非、ご連絡ください（別紙参照）。

### 雪のように白く、イエスの血潮の恵みの中で

今回の白馬は、半分ぐらいの積雪もあり、ソリ80台が滑走する5年ぶり、3度目の白馬となりました（次回は、完全な白銀かな？）。僕個人は、10年ぶりかと思える高熱となり、寒気と体の痛さと声が出なくて、苦しかったです。でも弱さこそ力で、神様、あわれみの中で、新しい力を与えてくれました。多くの皆さんが、薬やキャンデーを持ってきてくれて、それも感謝でした。今回、ジョセフ（4）と一緒に参加でき、それも楽しく、恵みでした。ジョセフは相変わらず元気で、初めての雪に大喜び、くつしたもズボンもびしょびしょにして雪遊びしてました。慌てて、松岡さんに連絡し、白馬への途中、雪用の



（写真上）基調講演者  
カーマン夫妻  
デービス&レイチェル・  
（写真中）基調講演者  
ジョイス・イノウエさん  
（写真下）読書感想文大会表彰式  
30名が入賞！  
写真撮影に燃えるジョセフ



ブーツ等を買ってもらってきました。チルミニスタッフのジュディスさんが、言っていました。「ジョセフ、エレベーターに一人で乗って、平気で操作してるからびっくりしたの。『お父さんは?』と聞くと『部屋で寝てる』って平然としてたから、ちょっと笑っちゃった。たくましいね、(〇)」。神様に感謝です。

至らないところ、多々、あったと思います。でもスタッフ一同、うれしく、そして、感謝に満たされた思いでいっぱいです。皆様のご参加とお祈りを心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

### チアの皆さんを愛したポールさん、天国へ

チア草創期から、チアの皆さんのことを愛してやまなかったポール・ブローマン（日本名：岩佐 勝）さんが、11月24日（土）の早朝、約5年の闘病を経て、宮城県丸森町の住み慣れた家で、家族に囲まれ、平安のうちに召されました（享年84歳）。以下、この冬の動きをレポートしつつ、早くからチアの展開に深く尽力してくれたポールさんやご家族の皆さんに敬意を表し、チア草創期からの歴史や、丸森、教科書プロジェクトなど、ポールさんとの関わりを軸に、その歩みを振り返ってみますね。大河ドラマのように長編です。エピソード等は、別枠にしていますので、そこはスキップして次を読んでいただいても大丈夫です。

### 白馬セミナーに届いた知らせ

ポールさん逝去の知らせが届いたのは、24日早朝。

#### <白馬ホテルで2日目の朝、ジョセフとの会話>

ジョセフ「まだ、雪、残ってるよ。雲は溶けちゃって青い空だけだけど。どうして、雪は白いのに、人間の心は汚いの」

ダディ「人間は自分勝手に、神様を恐れず、自分がやりたいことをどんどんやるんだ。食欲だったり、様々な欲望。アダムとイブが神様の約束を破ったでしょ。そこから始まるんだ。その結果、人間は誰も、神様と離れて、そのままだと地獄に行くことになるんだ。その人間を救うために、ジーザスが来て、罪を消して、今日の雪のように白くしたんだよ」

ジョセフ「どうしてジーザスは罪を白くするの?」  
ダディ「いい質問! イエスの血潮だよ。僕たちが地獄に行かないで天国に行くように、十字架の上で死んで血を流されたでしょ。その血潮との交換で、イエス様を信じたら、汚い僕たち、人間の罪は赦されて、雪のように白く、責められるべき罪は、何もなくなった、無罪と宣告されるんだよ。そして、神様と一緒に雪のように白く聖い者として天国に行くんだよ」

ジョセフ「Good! それはいいことだね!」

白馬セミナーの最終日でした。白馬セミナーには、ナタンさん、のりさん、ジュディスさん、賛美さん、十三男くんの5人らがかけつけ、チルミニの応援や分科会ほかの応援のために、危篤状態のポールさんに別れを告げて、参加くださっていました。みんなお父さんが大好きで、もちろん、そばにいて、天国へ送りたかったと思います。でも、ポールさんは、自分のそばにいてもらうよりも、伝道やホームスクーラーたちを助け、励ますことを良しとする思いでいっぱいでした。その心は子どもたちにもしっかり受けとめられていました。いつも元気なのりさんも、目を真っ赤にして、消沈されていました。でも、計報を聞いた後も、変わることなく、最後の後片付けまで、心を尽くして応援くださり、改めて感謝した次第です。

### ポールさんとの出会い

#### — チア・旗揚げセミナーにて

前日の夜、基調講演の時に、僕は、ポールさんとの最初の出会いについても、皆さんに話しました。

2000年4月、チアの旗揚げセミナーの時のこと。ホームスクーリングという、ことばすら知られていなかった当時、「出席者、5人か10人かな...」と心配していた僕に、妻、和紀子は、「別に5人か10人でいいじゃない。それで成功じゃない。もし、20人來たら、大成功!じゃない」と、励ましてくれました。実際は、3会場で、合計625名。東京は40名の部屋を予約していたので、2日前に急ぎよ、会場変更して、ようやく全員、入ることができたのでした。

神様の恵みとあわれみの中、皆さんのパッションが燃え、会場は熱気に満ちました。お昼休み直前のアナウンス中、「1分だけ、時間もらえないでしょうか」とひとなつっこい笑顔にあふれた方が、司会をしていた僕のそばに来て、やさしく声をかけました。



ブローマン先生に質問! (2005年5月 チア・コンベンション)

「悪い人ではなさそうだ...」と思い、「では1分だけ」と、笑ってマイクを渡しました。それが、ポールさん。「皆さん、この働きは神様の働きです。一緒にやりましょう!」と呼びかけてくれました。

その後、名刺をくれて「今後、何か手伝えることがあるかもしれません。どうぞ、連絡をください」とのことでした。数日後、基調講演者&理事のジュリー・ホーンさんに相談したところ、「良い話だと思う。奇蹟的なことかもしれない。連絡を取ってみたら」ということで、連絡を取り、今日のような13年越しのきずなが与えられることになっていきます。

### 神を恐れる共通項

三男のナタンさんは、今年の白馬セミナーの閉会式のときに、皆さんに挨拶してくれました。「父は、1950年代に日本に来てずっと日本人のことが大好きで、尊敬の心を持って、福音を伝えてきました。その中で、人の目を恐れるクリスチャンと出会うことも多く、その点はがっかりしていました。でも、日本で伝道始めて50年が経ち、チアの皆さんと出会いました。チアの多くの皆さんが人を恐れず、神を恐れて進んで行こうとしている姿に触れて、深く喜び、励まされていました。それで、チアの皆さんを少しでも応援できたらという強い思いが与えられていました。チアの企画は、父のスケジュールではすべてに勝り、最優先で、いつもいつも喜んで参加させてもらっていました。この5年は、闘病のために、父自身は参加できませんでしたが、でも、『これからチアに行くよ』と言うと、いつもしっかりとうなずき、心から喜んで送りだしてくれました。今回もそうでした」。

四男のノリさん曰く「『これから、チアに、白馬に行ってくるからね。稲葉さんと会って、手伝ってくるよ』と言うと、お父さんは、しっかりとわかったという表情にぱっと変わったよ。ことばは言えな

ったけど、はっきりと、うなずいて、送り出してくれたよ。お父さんには、チアはいつも、特別なんだよ」

心から感謝です。

### ポールさんの火葬

白馬を終えて、翌25日の早朝、僕はジョセフ（4）と一緒に丸森に向かいました。ポールさんの火葬が、召天翌日の25日になったと連絡を受けたためです。

丸森に着くと、納棺する直前でした。「稲葉さん！ こっちへ」五男のジャシュアさんの招きで、ポールさんの部屋に入り、ジョセフらと一緒に写真を撮ってくれました。ポールさん、この1-2ヶ月、点滴以外、ほとんど食事を取っていないとのこと、すっかりやせてしまっていたけれど、眠ったような平安な表情。でも棺桶をかついたら、とても重かったです。「重いねー」とジャシュアさんに言うと、笑って「親父は骨が太いんだ」。ポールさん、文字通り、身も心も骨太なんだな—と思いました。

火葬の前に、約150名の皆さんと、賛美歌を歌っていたら、涙が止まらなくなりました。どれだけ大事にしてくれ、励まし、助けてくれたことか。チアのみんなのことも、僕の家族のことも、そして、僕自身のことも。

式の中で、ナタンさん曰く、「もしここに親父がいたら、何を話すかな...、と考えました。やはり、CTスタッド宣教師のことばかな。人生は一回。でも全て、すぐに過ぎ去る。しかし、キリストに関することだけは過ぎ去らない。永遠に続く。このイエス・キリストを信じ、福音を伝えましょう!と話すのではと思いました」

ポールさんの弟のピリボさん「ポールさんは、今、天国です。どんな姿でしょうか。聖書に、種の殻はなくなり、殻の中のいのちが成長するとあります。天国では、今の老いて病で弱ってしまった、あるい



ポールさん、さようなら！

「私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました」（第二テモテ4：7）





とても重い！ 骨太の人生、ありがとうございました！

は地上で罪に汚れたポールさんの体ではありません。それは種の殻であり、その中にあったいのちが成長し、イエスの血潮で聖められた最強のポールさんがイエス様とともにいます。私たちも、後に、天国に行き、その新しい最強のポールさんを見て、ポールさんだとわかるのです」

長男のポール Jr.さん「父はスーパーマンではありませんでした。そうではないことを、母が一番知っている。弱く、罪に汚れた普通の人間です。でも、こんなに皆さんが感謝して集まってくれるのは、ただ、弱い父を通して、キリストの霊が働き、キリストご自身が、その愛を届けてくれたからだ、それだけだと思っています。今日はありがとうございました」

### ご自宅にて

会が終わって、ポールさんの自宅に戻りました。妻のせつ子さん「眠るようになってきたの。最後、15分前ぐらいに、希恵が私を起こしてくれたんだけど。息の回数が早く、大きくなったけど、それだけで……。痛い？って聞いても痛くないって手で合図して。ガンの末期ということで、お医者さん、モルヒネの準備、1ヶ月ぐらい前にしてくれたんだけど、1度も使わなかったの。何度聞いても、手を振って、痛くないよって、合図するの。子どもたちが、これから白馬に行くって言った時ははっきりわかって見送ったの。帰ってくるのに、ちょっとだけ、間に合わなかったね。それ、残念。でも、いいの。また、天国で会おうし。白馬に行ったの、喜んでたし」

ポール Jr.さん「2ヶ月前、お医者さんから危篤だと言われて、家族が集まった時、あったでしょう。実は、その時ね、アメリカにいる稲葉さんに国際電話して、ダディに稲葉さんの声、聞かせようかってみんなで考えたんだ。ダディはもう話せない感じだったけど、稲葉さんの声聞いたら、わかるだろうっ

てね。最初、アメリカのダディの弟（空軍の元将軍）に電話して、それがとっても喜ばれて、長くなったんだ。それが、ダディの体力の限界で、稲葉さんへの電話は無くなったんだけどね」

ジャシュアさん「親父は、稲葉さんとか、チアと聞くと、頭がすぐにしゃきとしたんだ。力があふれてくるというか……。ほかのことがわからなくなっても、そこは、最後の最後まで、そうだったよ」

ポール Jr.さん「そうだね。ただ、親父が一番、しっかりしてたのは、稲葉さんが最後に会った時の頃かな。いつだったっけ？」

稲葉「今年の夏の終わり、8月の最後の日かな、…」

### 永遠の苦しみの煙 — 黙示録14章

召天が白馬の最中であつたことも、少し不思議な思いがあります。白馬にて、召天が知らされ、チア・スタッフらも涙でした。本当は、僕は白馬終了後、11月28日に、丸森に向かう予定でした。だから、とても残念。その時、再会したかったです。ジョセフと見舞った夏の終わりが地上での最後の再会になった……。でも、後で思ったことは、白馬の最終日まで生きてくれたお陰で、このように納棺にも立ち会い、火葬にも参加でき、そして、ご家族と親しく交わることも許されたんだな—と思いました。そして、召天式も、チアのみなどと参列できました（後述）。

白馬では、ナタンに報告してもらった後に、ポールさんが何度も何度も、チアのみなどに訴え続けた黙示録14章9-12節を読んで、みんなで悼みました。

「アメリカでも日本でも、ほとんど語られない、聖書の大事なメッセージをポールさんは語り続けてくれました。神の愛を口にするのはやさしいし、人々に受け入れられやすいけど、地獄の苦しみの存在は、人々に憎まれやすくもあり、人の目を恐れる限りは、できない。イエス様御自身や、黙示録ほか、明確に語られ、イエス様の十字架の死の理由でもある、核心のポイントであるにも関わらず。人の目を恐れる結果として、今日の多くの教会では、避けられ、語られなくなった聖書のメッセージです。それをチアのみなどに、ポールさんは愛を持って何度も語ってくれた。ポールさんは僕に、『ピアノの鍵盤で、変わったキーを弾くと最初はめずらしがられても、何回もそればかりを続けて弾くとそのうち、嫌がられ、最後は憎まれるよ。それでもいいかな？』と謙遜に聞いてくれました。『もちろん、OKです。神様の導く限り、何でも遠慮や躊躇なく、直言ください』と答えました。それを受けて、講演の度に、心を込めて、語り続けてくれた聖書のことばです。

『もし、だれでも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら、そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲む。また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る。獣とその像とを拝



む者、まただれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も休みを得ない。神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける聖徒たちの忍耐はここにある。』(黙示録 14: 9-12)』

そうした緊迫感と、神様の圧倒的な愛に満たされた、ポールさんの痛切なメッセージに、魂を揺さぶられ、目を覚まされ、自分のあり方を悔い、立ち上がった人々はどれだけ多いことでしょうか。夏に見舞った時、僕はポールさんにお礼を言いました。「CTスタッドのメッセージ、『すべては過ぎ去る。でも、キリストのためにしたことは永遠に残る...』は、今回の夏キャンプでも、ダニエルやナタンから、何度か語られました。5年ぐらい前に、病院にお見舞いに行った時に、ポールさんから、この話し聞いたでしょ。CTスタッドのことばは、チアへの特別なメッセージと受けとめていると、皆に伝えましたよ。ありがとうございます」と。ポールさんは、「わかった」としっかりうなずいてくれました。次回、会った時には、黙示録のメッセージ、「永遠にまでも立ち上る、地獄の苦しみの煙」のメッセージをありがとう！と伝える予定でした。でも、それは、天国で...と延期となりました。今は、バトンを渡してくれた聖書のメッセージを、しっかりと自分の胸に刻み、そして、次世代に分ち合っていけたらと祈っています。

### チアの皆さんと参加したメモリアル・デー

続いてポールさんのメモリアル会が、12月9日、仙台・グレープシティ本社で開催されました。およそ600人あまりが参加。その半分は、グレープシティ、明泉学園や仕事の関係者、そしてせつ子さんのご親族といったノンクリスチャンの皆さんで、ポールさんが願っていた通り、良き伝道の間として大きく用いられました。

丸森からの皆さんは約150人と、少し少なめ。海

外の丸森関係者の皆さんの多くは、インターネットでご参列となりました(当日の様子は全て、ビデオ収録されて、チアホームページにアップされています。どうぞ、ご覧ください)。丸森の文化では、葬儀であっても、頻繁に日本に帰国することを慎み、控える姿勢があります。伝道に向かっている子どもたちや親戚関係者が全員、帰国すると経済的な負担も大きく(1家族10人近く、海外伝道に出ているケースも多いので)、儉約の姿勢を保ち、天国での再会を楽しみにし、また、各国の地元の皆さんへの模範になるためです。それでポールさんの場合も、深い思い出や感謝の心を持つ皆さんがもちろん、多いのですが、いつもの丸森の葬儀と変わりなく、帰国者は一部の皆さんでした。

チアのつながりでポールさんと出会った皆さんの参列者は、日曜の午後にも関わらず、約120名。ご遺族の皆さんに、とても喜ばれました。日曜の午後の開催だったので、やむなく欠席の方も多く、もし、土曜であれば、もっと多かったのになー、と最初は思いました。でも、会場のスタジオは満員で、ずっと立ち見の方も多かったので、これ以上は無理な状況でした。全てに神様の御手があったのだと思いました。

ミャンマー大使やビジネス関係の多くのノンクリスチャンの皆さんが参列されるなか、明泉学園のママさんコーラスがいくつか賛美歌を献じました。よく練習されたんだろうな...、ほとんどがノンクリスチャンの方であろうし、賛美歌練習してる時に、心に語られてるだろうし、良かったなーと思いました。

ピリポさんの話の後に、7人の皆さんによる思い出話の時間がありました(僕もその内の一人ということで指名いただき、話しました)。一人5分ということで、ポールさんを褒めるというよりは、この機会が伝道メッセージとなるように！と、心しつつ、ことばを選んでの良きメッセージでした(※2)。

### ※2 弔辞

#### ■ダニエル・ファンガー明泉幼稚園園長

「ポールさんは、先見の明とガッツとチャレンジ精神がありました。中国語授業の導入、また、グレープシティ立ち上げ等、ポールさんのプランです。ポールさんは私にとって、もう一人の父親みたいな存在でした。一緒に仕事ができたと、いろいろ模範を見ることができたこと、本当に感謝...」

#### ■馬場 直行グレープシティ社長

「ポール会長から、このようなことを言われました。『直行、私が死んだら葬儀で会社を代表しておまえがスピーチをすることになると思うけど、私を褒めることをたくさん言っても意味ないからね。その代わりに神様のことをみんなに話してくれ。私は天国で社員みんなに再会したい。』これがポール会長の本心でした。よく、記者などから、ポール会長の経営思想や人生について記事や本を書かせてくれ、と依頼がありました。その回答は『私の人生などを本に残しても意味はない。代わりにイエス・キリストの生涯について本を書いてもらえ』でした。人から褒められることや認められること、崇拜されることを好むことは人間にとって良くない。すべてをコントロールしている万能の神様の前で何が正しいか、と言うことを基準にいつも考える謙遜な姿勢を持つことを教えられました。」





メモリアル会 約600名に聖書&福音が伝えられた!  
(仙台・グレイプシティ社)

### 1954年の岩手日日新聞記事より、、、 乞食と同じ、でも親しみと祈りの心を抱いた！

5人めに立ったのは、ポールさんと30年来の交わりのある翻訳家で塾経営者でもある湯浅鉄郎さん。ポールさんらの伝道活動を1954年に取材した岩手日日新聞の記事を読み上げました。

「花巻市郵便局南側の戦災焼跡に、緑の古ぼけた二つの天幕を張って、日夜、キリスト教伝道に

献身している人たちがいる。

……米人4名、2世2名、日本人4名、計10名の男性のキリスト信者がいて、……花巻の一軒一軒の門を叩いて、キリストを証しして歩くばかりでなく、祭典などの時は群衆の中でプラカードを立て辻説法をしパンフレットを配るのである。

すでに花巻近辺の個別訪問は3度を重ね、現在、二十幾名かの信者を生み出しているそうである。米人と行を共にして献身している日本人もみなこ

## ※2 弔辞

### ■太田 仁一 啓明小学校校長

「ポールさんは私たち家族を毎回自宅に招き、夜遅くまでキリストの信仰について、情熱をもって話してくれました。

こんな話もありました。ポールさんが田の畦道を歩いていたら、向こうから高校生が来たそうです。すれ違うことのできない田の畦道で、その高校生は、田の泥の中に降り、帽子を取ってポールさんに挨拶をした、と言うのです。このような日本人の姿に日本の心を見た、ということでしょう。次のことは、私がキリスト信者になる前にポールさんから受けたことです。

私たち人間は、解決できないことが二つあります。罪と死です。私たちは善であるよう、正しくあるよう努めることはできます。しかし全ての時間、一瞬、一瞬の時間を善であるよう、正しくあるように努力し、罪のないようにすることは出来ません。努力して自分を律しても、できないのです。努力すれば分かります。神は光です。神に近づけば自分の汚さが見えるのです。罪ゆえの罰は、永遠の燃える火の海、地獄です。

しかし、神は私たちを罰する代わりにその独り子をこの世に送りました。キリスト・イエスです。神は、この方に私たちの罪による罰を負わせ、十字架に架けたのです。キリストは私たちの罰を身代わりになって負ってくれました。私たちの罪は、すでに赦されているのです。私たちにできることは、ただこのことを喜び、感謝するだけです。キリストを信じる者は全ての罪が赦されるのです。」



うして、救われた人たちがそうだ。そればかりではない。米人たちも、やはり戦争中は、軍隊の一員であり、日本にも進駐したことがあるそうだが、一度キリストのことばに触れて改心し、除隊になるやすぐにカリフォルニアで日本語を学び、キリスト教のきびしい祈りの生活を終えて、再び、日本に戻ってきたのが、一番古い人で4年前。ほとんどの人は2、3年になるそうだ。

……志を同じくする人が相集い、現在のようなテント生活にまで発展したそうである。……もちろん政府や教会や、社会事業団からの援助などは全くなく、かつての十二使徒時代の信仰と実践だけを念じて、原始キリスト教時代そのままを送っているそうである。

……食事は全く日本食で、私が訪れたときは丁度、豆腐のみそ汁を煮ていたところであった。この人たちが夜の休養をいかにしているかを記さなければならぬが、それは私たち日本人にとっては乞食と同じものである。ムシロ一枚に、毛布一枚。ムシロの下は石ころのごろごろする地べたである。

なぜこの人たちはこんなにまで貧しい苦しい生活を通して伝道を続けようとするのか。一人の信者はいう。私たちは日本人にキリスト教を教えるために（いわゆる先生として）来たのではない。

イエスは低く謙遜になることを教えているが、私たちはそのことばのままもっとも低い地べたにねてそこからイエスのことばそのままを、ただ率直に伝

えるだけである。……ときにはつばきをかけられ、あざわらわれてもこの人たちは来るべき世界を信じてキリストの福音と教えにいのちをかけようとしているのである。神の子キリストはこの世のすべての人が救われることを願い、そして愛した。しかし彼はこの世の人々に憎まれ、あざけられて、かの十字架の苦しみをなめられたのである。「私たちも、イエスの如くイエスの辿った道をそのままに十字架を負うて、生涯あゆみつづけるのみです」と語るこの人たちのあおいひとみはサンゼンと輝くのである。

……信者の一人は「いつか私たちは大きな迫害を受けるときがあるでしょう。しかし私たちはそれをおそれません。キリストと共にあるさいわいはこの世の苦しみよりも、大きいものだからです」と語って口を固く閉じ、遠いまなざしをしていた。

……何かたまらない親しみといのりの心を抱いて別れを告げた。」(全文はチアHPを参照ください)

### チアの歴史：聖書に立つ教科書プロジェクト

湯浅さん。実は、チアとポールさんら丸森の皆さんとの結びつきについても、一役買ってくれた恩人の一人です。

2000年11月、私はポールさんに招かれて、仙台の明泉学園に向かっています。20人あまり、丸森の理事の皆さんたちが待っていてくれ、今後の「聖書に立つ教科書」プロジェクト支援を検討したいとのことでした(※3)。

### ※3 「聖書に立つ教科書」プロジェクト パート1

「聖書に立つ教科書シリーズ」プロジェクトは、上記の2000年4月のチアの旗揚げ集会で、閉会近くに会場から強い要望が出されたものでした。「チャーチ&ホームスクーリングに立ち上がりたい！でも、日本には、聖書に立つ教科書が1冊もない状況。この状況を何とかできないでしょうか」

そこで、手を上げてくれたのは、日本のクリスチャン大手出版社で、私の以前からの知人でもあるA社のB会長でした。「聖書に立つ教科書は、日本に必要です。私たちの会社がやりますので、私たちに任せてください」。340人を超える皆さんは総立ちとなり、割れるばかりの拍手を持って、B会長にエールを送ったのでした。僕も、とてもうれしく、頼もしく思い、「どうぞ、よろしくお願いします！」と頭を下げて、マイクを引き取りました。

数ヶ月後、A社の会長室で僕は、B会長と話していました。

「稲葉君、聖書に立つ教科書出版は、とても良いミッションなんだけど、我が社で、その後、会議を持ったら、経済的な心配の声がいっぱい出てね。つまり、市場が小さすぎて、もうからないし、大規模な投資資金を回収できないだろう。だから、我が社では、当面、やらないということになったんだ。ミニストリーとしては、意義があり、本当に素晴らしいのだけどね。それで、まずは、神様に召された稲葉君に、出版を進めてもらい、市場規模が拡大し、もうかるとなった段階で、我が社も参入しようと考えてる。だから、稲葉君、がんばってほしいんだけど、…」とのことでした。

「え?」。テレビ番組等の制作は、150番組を超えていましたが、出版の経験などゼロの自分です。チアのニューズレターに次々と素晴らしい証しやメッセージが寄せられ、これはもったいないから、「マガジンにして、一般の皆さんも読めるようにしようか。初めてだけど、出版に取り組んでみようか、…」と動き出し始めたばかりの時でした。

「自分には何にもできないけど、神様にはできる!」、そんな内なる声に励まされながら、「聖書に立つ教科書出版」も、チアで取り組みなさいと神様が導いているのかな、と、心に感じたのでした(次頁へ)。



### コントロールなき支援

ポールさんは、よく誤解を受けます。発言権が強く、独裁者的にも思われがちです。実際は、ポールさんは、自分がボスと言われることが嫌いでした。この12年、年2回、60人ぐらいが集まる、理事たちの相談会に参加させていただいています。そこでは、たとえば人間の常識的には、発言力が弱いとされる方の意見でも、聖霊の声かもしれないということで、みな大事に聞く、丸森の良いところがあります。

2000年11月の相談会では、教科書プロジェクトを支援するかどうかで、賛否両論、激しい議論が交わされました。外部のクリスチャン団体に丸森の伝道資金が用いられることは、当時、ほとんどなかったとのことで、ポールさんからの異例の提案でした。「ホームスクーリングムーブメントは、まさに人の目を恐れず、神様を恐れ、従おうとするムーブメント。集団意識の強い日本人の中で、そのような働きが起こされたことに神様の特別な御手があり、これは応援すべき。聖書にあって真剣に立ち上がろうとし、でも今は、少数で、助けが必要なクリスチャンたちがいる。助けたい」「まだ、わからない。今後、ほかの教会の働き同様、ポイントをはずし、妥協していくかもしれない。厳しい経済の中で、貴重な伝道資金をまわす意味があるのか。稲葉さんも、元NHKディレクターだけど、フラァ神学校を出て、テレビ伝道者、今、牧師で、、、うーん。正直言って、今後どうなるか、まだ、わからない」「この半年間、チェッ

クも兼ねて、それまで2回（教科書チェックとボブ・ジョーンズ大学訪問費用の一部）、少ない額で応援してみたが、正しく使われた。また、実際に稀有の扉も開かれ、有効に用いられた。私たちができる助けをすることに神様の御心があるのでは」「4月の旗揚げセミナーは、とても純粋な、ただ、聖書に立ち返って、次世代を育てて行こうとのメッセージに満ちていた。その後のニュースレター等でも、その筋は通っている」「この日本で、ホームスクーリングに立ち上がった人々がいることは素晴らしいし、私も助けたい。でも、教科書は必要ないのでは。聖書があれば十分ではないか」「確かに、聖書が根本だ。でも、その聖書理解や、日頃の学習リズムを助ける上で、聖書に立つ教科書も有効だ。でも、今、日本にそれが無い。今、歴史的にも大きな扉が開こうとしているのでは」「聖書は、聖書で理解を進めるべきだ。教科書はいらないと思う」「確かに、聖書は聖書で理解できる。それだけで、ホームスクーリングを進められる人もいるだろう。でも、教科書があることで、リズムや自信が生まれ、効果的にホームスクーリングを進められる人々も、少なからず、実際はかなりの大多数にいるだろう。その人々を助けられる。今回、計画されている、「聖書・心を育てるために」の印刷費用を支援したらいいのでは、、、」「経済的には、当面、成り立たないであろう。確かに、やると言っていたA社が気持ちを変えたように、市場規模が小さすぎる。だからこそ、誰かが身を切って、支援する必要がある」「しかし、私たちの費用は限ら

### ※3 「聖書に立つ教科書」プロジェクト パート2

こうして産声をあげかけていた「聖書に立つ教科書プロジェクト」。「多少、応援できるかもしれない」との4月の旗揚げ集会での約束をポールさんは守り、実行に移してくれました。リサーチのための費用の一部（交通費や書籍購入費等）を応援してくれていたのです。

当時、住んでいたハワイから、チア・カリフォルニアコンベンションに向かい、全米200社あまりの聖書に立つ教科書出版社の各ブースをリサーチしていました。そこで出会ったのが、最大手のボブ・ジョーンズ大学出版の責任者のリッチさんらでした。リッチさんらは興奮して言います。「一昨日、会議で、これからは宣教も考え、海外での翻訳出版を考えよう、と決定したばかりだったよ。すごい出会い！ ぜひ、BJUに来てください」。

ボブ・ジョーンズ大学は、80年代にいち早く、ホームスクーラーの支援に立ち上がった大学です。ほかの教科書会社は、ホームスクーラーへの販売を禁止していた時代です。当時は、販売先だったクリスチャンスクールが、ホームスクーラーはクリスチャンスクールの商売敵になるのでは、、、と強く懸念していた時代で、その空気を察知して、教科書会社が「ホームスクーラーには販売しません」といったアピールをしていた時代でした。（その後は、クリスチャンスクールとホームスクーリングが共存共栄し、共に祝福されていく道が開かれていくのですが、、、）

ボブ・ジョーンズ3世総長、始め、責任を担う皆さんは、日本のチャーチ&ホームスクーリングムーブメントの胎動を喜んでくださり、ボブ・ジョーンズ大学出版発行の教科書や書籍、4000点あまりの日本での翻訳出版の許可を出してくださったのです。同大学の教科書は、40年あまりの年月の中で、改訂が何度も重ねられ、1冊につき、約1億円が投じられていると言われていました。特に「聖書」、「りか」、「世界史」等は、全米のホームスクーラーやクリスチャンスクールで最も用いられているトップブランドです。その扉が、開かれたわけです。そして、2000年11月に、ポールさんは、仙台に招いてくださり、「聖書に立つ教科書プロジェクト」の経済的な支援を検討して下さることになったわけです。



れているし、事業のローンもあり、余裕があるわけではない。伝道資金は、パンフレット等、直接の伝道に用いられるためのもので、それを削って、ほかを助けるのは、私たちの本旨に合わないのでは」と話しがざっくばらんに進みました（その後の13年、毎年の相談会では、議論は、いつも、このようにざっくばらんに進められます。意見がわかれた時は、聖霊の導きがどこにあるか、皆が納得し、平安を感じるまで議論が行われます。決断された後は、違った意見だった人も尾を引くことなく、決断を神様の御心をとらえて進むところが特徴です）。

話しが、経済的な支援の最終決断ということになったので、外部からの出席の僕と、それから、もう一人、湯浅さんが退出することとなりました。湯浅さんは、教育関係の道を歩み、クリスチャンの世界のことも、丸森のことも両方わかるということで、オブザーバーとして、福島県から呼ばれていたの

でした。早稲田大学法学部出身で、フラ―神学校卒ということで、学部等まで、僕自身の歩んだ道と、まったく同じで、不思議に思いました。

別室で、僕は、湯浅さんに相談しました。「印刷費を考えてくださる、、、という提案に、とてもびっくりしました。そこまでは、期待していなかったのです。でも果たして、丸森の皆さんのご厚意、もし、OKとなった場合、受け取っていいのだろうか、、、と、ちょっと躊躇があります」「感謝して受けとめたら？批判する人はどうあっても批判するし、きりが無い。丸森の人たちは、経済的な支援をしたとしても、何のコントロールもしないし、したいと思ってないよ。自分たちも苦しい中で、ただ、聖書に従おうとする人を助けるために、神様に喜ばれようとしてサポートしようという人たちだから」とのことでした。即断が必要だった僕を覚悟させる良きアドバイスでした（※4）

#### ※4 「丸森の教会」取材して

チアのモットーの一つは、すべての教会や団体から、独立した存在で、コントロールされることなく、神様の導きに、自由に従っていくことです。丸森の皆さんと、どのようなスタンスで接するか、この頃、スタッフたちとよく話したことです。当時、既に、丸森の皆さんがカルト的な団体ではないかとの懸念も、寄せられていました。NHKのディレクター時代以来、神様が僕に与えてくれた訓練は、噂等に振り回されず、いろいろな角度から、取材をし、できるだけ、正確な情報を集めた上で判断することです。また幼少の頃、父母が、いじめられたり、孤立している人に偏見を持たず、義に立ち、その人を助けていくことを教えてくれていました。それで、多勢に無勢で、損することになっても、できる限り、正義の道を歩もうという姿勢や方向性への父母の教えが、人生の姿勢として養われていたと思います。

実際に取材してみると、神学的に、とやかく言われることは何もありません。噂で言われることも、真実と異なり、事実の断片を悪意でゆがめ、誹謗中傷に用いていることが多くみられました。ポールさんたちが実践してきたことを一言でまとめれば、ただ、聖書に立ち、愛をもって伝道していこうということです。

もちろん、60年もの間、過ちなく、完璧であったとは思いません。完全無欠の教会や団体は、地上には無い、天国にしか、完全はないというのが僕の理解です。たとえば、途中、別れていった人々、そのようなケースについては、両者の傷や悲しみがあると思うし、痛みを覚えます。同時に思うことは、だからと言って裁けないということです。創立メンバーの中で、別離や卒業といったことが、一人も無かった教会や団体等、聞いたことはありません。いろいろな事情があるだろうし、この世には、様々な攻撃があります。聖書が、「すべての人は、罪を犯した」（ローマ13：23）と示すとおり、あら探しをすれば、全員に、何か、過ちとか、悔い改めるべき点があると思います。

ポイントは、そこで問題に直面し、悔い改めて、イエスの血潮の赦しとあわれみの中に、立ち上がろうとしているかどうかであると思います。丸森の皆さんに関しても、素晴らしい働きの中でも、日々、様々な問題も生じています。それゆえ、年2回の相談会は、各2-3日、いろいろと善後策が話し合われるわけです。そこで偉いと思うのは、まっすぐに問題に直面し、聖書にある解決法を、様々な角度から求め、悔い改め、フォローしあって、前進していくところです。その意味で、尊敬こそすれ、距離をおいたり、忌み嫌ったりする理由がありません。

#### 「丸森の教会」の伝道方法について

トラクトを配ったり、立て看板に聖句を書いて立つ方法への批判も届きました。「逆効果である」と。でも、どれだけ多くの方々が、その伝道を通して、クリスチャンへと導かれたことか。コンベンション等の開催中、ポールさんたちの元には、必ずといっていいほど、お礼を言いにくる人々がきました。「私は、あのトラクトでイエスさまを信じ、今、牧師をしています」「母がスピーカーを聞いて、イエス様を信じ、自分を教会に連れていってくれ、今に至っています」「あの正月伝道で信じ、今も自分の教会では、月に1度、駅



前伝道をしています」等々。ほかに、今、教会につながっていないにしても、トラクトやスピーカーで福音にふれ、どれだけの人々が心で信じたり、あるいは、福音を聞き、考えるチャンスを提供したことでしょう。「逆効果」と批判を繰り返す人々は、その現実をどのようにとらえるのでしょうか。でも、このあたりの意味のない批判は、残念ながら、よくあることで、僕自身も、学生時代から、そうした不条理な批判は、よく体験してきました。キャンパスクルセードは、よく路傍伝道にでかける団体で、僕自身、教会の外に出て行つての宣教活動ゆえに救われました。学生時代は、週1、2回、僕もよく路傍伝道に出かけました。教会の学生会は、30名、40名と人数が増え、大きくなっていきました。その中で、僕の後輩は6人、7人と僕に先駆けて、フルタイムの伝道者となっていました。そのように聖書と伝道に燃え、小さなリバイバルみたいなことが起こっていた時期でも、先輩クリスチャンの中には、積極的に出て行く伝道方法に皮肉や苦言を言う人たちが少なからずいて、残念に思いました。実際にやってみると、多くの魂との貴重な出会いがあり、すぐに信じなくても心を開き、福音を聞いてくれ、伝道の機会となっていたので、無駄だという批判は的外れでした。

そうした人の批判に関わらず、神様は、神様を恐れ、大胆に出て行く伝道を用いるものです。私の故郷の弘前は、丸森の皆さんが貼った、聖書の看板がたくさんあり、ある道路沿いでは、20分、車を走らせると、ほぼ福音のポイントをすべて読むことになる道路等があります。僕が、学生時代、クリスチャンになった夏、高校時代の親友に話しました。すると彼は「稲葉、クリスチャンになった？ あの看板を信じたのか」というリアクションでした。つまり、親友の心には、福音＝聖句看板と言えるほどに、看板を通して聖書のことが浸透していたわけです。

#### 直接の体験から

僕自身の丸森の皆さんとの直接の体験・思い出は、以下のとおりです。僕が明確に覚えているのは、高校の時、校門で聖書を配っている方たちがいて、「ほしいな」と思って、その方向に歩いていたら、僕の数人前を歩いていた高校生が、その人たちと話し始め、僕が、もらいそびれた体験です。もっとはっきり覚えていることは、学生時代、帰省中に、聖句をスピーカーで流して走っている車から、家の中に福音が聞こえてきました。すごい感動して、僕は自転車で追いかけてきました。ようやく小型のバンに追いついて、感謝を言おうと思ったら、車の窓をさっと閉められ、スピードを上げて行ってしまいました。クロぶちのメガネをかけた壮年の方が、前を見つめて、運転してたのが見えました。後で聞くと、多分、どなられたりするかと警戒したのかな、、、とのことでした(^\_^)。一番、良く覚えているのは、NHK時代、東京・御茶ノ水でのことです。12月末で、吹雪で、すごい寒い日の夕方。駅前で、聖句の看板を持って、伝道している中高生が見えました。「こんな寒の中、すごいな」と感動する一方、表情は少し暗く、「この子どもたちは、マインドコントロールされているのだろうか、、、」とも思いました。「どこから来たの？」と聞くと、「宮城県の丸森町、、、ていうか、仙台の近くの町です」「どういう気持ちでやってるの？」イエス様の十字架の救いの福音を一人でも多くの人に伝えたくて」その時の中高生の表情は、明るく、喜びに満ちていて、僕は安心しました。最初、ちょっと暗く感じた表情は、きっと寒い中、朝からずっと立って、疲れたのか、それとも、様々な霊的なプレッシャーの中で、緊張したり、戦いのモードにあったんだろうなと思いました。話し終わった僕の感想は、何て素晴らしい子どもたち、なすべきことをしている筋の通ったクリスチャンたちなんだということでした。

#### スケールの違い

ある日本では最大級の教会と言われる教会の旧知のC牧師が僕に言いました。「彼らのことはよく知っている。でも彼らの伝道スタイル、かっこわるいんだよね。なにか、スマートじゃないんだ」でもすぐに、彼は、思い直して、言いかえました。「いや、そもそも、伝道に、かっこいい、スマートな伝道ってないよね。さっき言ったのはおかしいかな。そういう意味では、丸森の伝道も、神様が導き、用いているのだろうね、、、」C牧師が悔い改めて言い直したことに、僕は理があると思います。伝道は聖霊の働きであり、60年に亘って、出て行つてのべつたえ続けてきた、その実践に、僕は頭が下がります。あれこれ文句をつけたり、批判することは簡単です。でも、伝道には、愛と勇気、怠けたい心に打ち勝つ思いや犠牲となる生き方、また、実際の経済的なバックも必要なのですから、それを60年というのは大変なことです。日本からアジアやブラジル等、400名近い、宣教師を送っている団体など、日本のキリスト教史にないのですから、神様、丸森の皆さんを通して、歴史にない、スケールの違うことを導かれているのだと思えます。

殻を打ち破る、ダイナミックな伝道です。あるとき、ビジネスマンのクリスチャンリーダーの集会に出たところ、弁護士さんが、「あの正月伝道のポールさんたちの伝道は、もはや、風物詩になっている。日本の壁を打ち破っている。日本のクリスチャンは、隠れていないで、聖書が言うように殻を破って、出



て伝道すべきではないか」と発言されていました。NHKラジオで、風物詩として、俳句が詠まれたり、一般の映画のオープニングに使われたりしている看板、実際、立ってみると、どれだけ多くの皆さんが、目を向け、読み取ったり、あるいは、そのことを話題にして歩いていくか、体験できます。

### 真理に立つ自由を勝ち取る闘い

簡単に、殻が破れ、風物詩になったのではありません。80年代の頃は、機動隊に、ポールさんが引きずりまわされ、連行されたりした時代もあったそうです。でも、ポールさんたちは、知恵とガッツとチャレンジ精神と伝道への情熱に卓越していました。「ニューズウィーク」で取り上げられたりする中で、日本の弁護士らも、言論の自由の面から、サポートし、警察も、そのあたりの法的な認識と、伝道に対する姿勢を改め、現在に至ります。それは日本だけでなく、アメリカでもそうです。アメリカの警察官は、一緒にトラクトを配る人もいるぐらいです。ちなみに、グレイプシティの社長室には、警察からの感謝状が何枚も届けられ、飾ってあります。中国、インド、タイ、ブラジルほか、たくさんの言語をネイティブスピーカーレベルで話すスタッフが多いので、警察に逮捕された外国の人々の通訳の奉仕を長年に渡って行い、その貢献から、感謝状が贈られているわけです。年間のトラクト配布数も、日本だけで、年間、約200万部を超え、また、年末年始の期間中、聖句看板に触れる人々の人数は、全国で1000万人を超えます。

これは日本だけではなく、海外10数カ国でも同時に展開しているわけです。60年あまり、ポールさんたちが、聖書と憲法にあって、震い立ち、闘い、そして、聖霊の力で、立ち続けてきたことに神様の御手があり、今、多くの実を結んでいるのだと思います。

### ※5 映画「新ジーザス」の胎動

夜、ポールさんと五男のジョシュアさんと夕食を食べました。そこで聞かれたことは、これまでのテレビや映画の制作についてでした。NHKでの大小100あまりの番組制作、そして、ハーベストタイム時代の50あまりの番組制作、ハリウッドのクリスチャンプロデューサーたちに励まされて、キリストを証する映画制作の志しを与えられ、2年ほど祈り、ガリラヤ湖で、「さあ、湖の向こう岸へ渡ろう」（ルカ8：22）の聖句を自分への導きと確信し、踏み出して、今に導かれていること、、、等を分かち合いました。

するとジョシュアさんは、今、伝道でキャンパスクルセード制作の映画「ジーザス」を用いているが、新しく福音を伝える映画を制作したい、手伝ってもらえる可能性があるかと話し始めました。それまで、キャンパスクルセードから映像データを譲り受け、その前後に創世記や黙示録の部分を足して、用いているが、1978年制作なので、やはり、今の時代に合う感じに制作したい。1998年にポール・エシュルマンCCC副総裁の紹介でハリウッドのプロデューサーとミーティングしたが、そのプロデューサーは関心を示さず、ハリウッドとのコンタクトが無く、止まっている状況とのことでした。それで、僕には、ハリウッドとのコンタクトがいくつか与えられていることを伝えると、「そこからアプローチを始めよう」ということになりました。その日が映画制作に僕が関わらせていただく初めの日となりました。

### キャンパス・クルセード副総裁からの弔辞

メモリアル会には、キャンパス・クルセード・フォー・クライスト 副総裁で、この35年あまりで、のべ60億人もの人々が観た 映画「ジーザス」のプロデューサーのポール・エシュルマンさんからも弔電が届いていました。エシュルマン副総裁と最初に会ったのは、2001年。当時は、映画「ジーザス」の後継候補は、ほかにもたくさん名乗りがあり、反応は、いま一つでした。その後、「ロード・オブ・ザ・リング」や「ナルニア」などを手掛けた、ハリウッドの最先端の制作チームが加わることとなり、創世記や黙示録、天国・地獄や霊的な世界と描かれていく体制ができていく中で、エシュルマン氏は、「これで、若い世代や、欧米以外の地域の必要にも応える作品ができる！」と喜び、正式にアドバイザースタッフの一員となってくれました。その後のポールさんとのミーティングも喜び、ポールさんのことを心から尊敬していました。送られた弔電の一部です。

ポールさんには、「よきスウェーデン人の子孫としての気品」がありました。さらに、「岩佐勝として、よき日本人の心」がありました。そして何よりも「主の優れた僕としての品格」がありました。神の国の実現のために全世界に福音を宣べ伝えたいというポールさんの夢の実現に向けて祈り続けたいと思います。

キャンパス・クルセード・フォー・クライスト副総裁  
ザ・ジーザス・フィルム プロデューサー  
ポール・エシュルマン



## 取材からの判断

丸森の取材を終え、チア・スタッフたちと決断したのは、以下の点でした。「神学的に問題はない。完全な教会は地上にはない。悔い改め、神様のあわれみを求めつつ、まさに聖書にあって伝道しようと、歩んでいる。伝道方法も、実際、効果も大きく、何より、60年に亘っての実践の前には、尊敬しかない。400名あまりの伝道者・宣教師を送り出している団体など、日本にはないのだし、尊敬し、学ぶべき点が多い。丸森の皆さんと一緒に行動して、僕やチアが批判されたり、一時的に誤解して離れる人々がいても、それは神様に委ねて、進むべき。もし誠実な動機で質問してくる人々がいれば、それに答えていこう」ということでした。

その判断をもって、11月のミーティングに出たのでした。でも、思いもかけない経済的なオファー等に少し、躊躇ができました。資金が出るから、応援しているのだろうと言われたら、どう答えようか、ちょっと迷ったからです。でも、上記のとおり、ちょうど、湯浅さんという先輩のアドバイスもあり、丸森の皆さんの内部の会議の結果は、いずれにせよ、神様の導きと受け取ろうと、心を決めました。

内部での会議が終わって、湯浅さんと僕は、再び会議室に招かれました。結論は、「聖書2-心を育てる」の印刷代等、出版費用を応援して下さるとのことでした。僕は、感謝を伝えました。その後、翻訳費用を、応援して下さる別の方々も与えられ、いよいよ、日本初の聖書に立つ教科書が刊行されたのでした。幸いにして、出版は好評を呼び、経済的にも黒字となり、それ以降の出版プロジェクトへの継続につながっていく奇蹟的な展開をします。また、「チャーチ&ホームスクーリング」が単なる理想論ではなく、実を伴ったものであることを示す武器の一つとして、「聖書に立つ教科書」シリーズの刊行のインパクトは、とても大きなものだったと思います。そしてさらに、11月のミーティングの夜、聖書に立つ、映画制作の展開が待っているのです（※5「映画『新ジーズ』の胎動」へ。12ページ）。

## 情報が伝わったときに…

13年前、丸森の皆さんと、いわゆる日本のクリスチャンの間には、少しギャップがあったと思います。今は、日本全体で多くのクリスチャンたちに尊敬され、インパクトを与えてくれています。

当時、丸森では、「キリストのために、証しすると称して、自慢話になる」ことを、厳しく自戒していたので、その伝道活動については、ごく一部の人にしか知られていなかったと思います。

その情報の壁が、いい意味で壊され、情報が伝わったとき、多くの人々の魂が、揺さぶられ、励まされ

れました。

アメリカからの講師陣たちは、ほとんど、丸森のポールさん宅に連れていきました。そこで、ポールさんの3-4時間の証しを聞くと、みな、ポールさんのことが大好きになります。彼らは、アメリカでも大きく用いられているので、丸森の働きは、アメリカや海外にも知られることになっていきます。

故郷での不条理な中傷、これは、考えてみれば、イエス様自身が歩んだ道でした。「はっきり言うておく。預言者は、自分の故郷では歓迎されないものだ（ルカ4:24）。イエス様のことばです。生まれ故郷、ナザレの人たちは、イエスのことばをかたくなに拒むだけでなく、不信仰を指摘され、激怒して、イエスを崖から突き落とそうとしました。「しかし、イエスは人々の間を通り抜けて立ち去られた（ルカ4:30）。」イエス様は真理にたつて、自由な存在で、不条理に縛られることなく、突き抜けていきます。

後に、ナタンさんと話して、なるほどと思ったことがあります。「事実を曲げて、悪口を言われて、いい気持ちはしない。でも、考えてみれば、もし神様の前に立つなら、本当は、自分の罪は、もっともっと深いものがあるんだよね。もし、それを全部、書かれるとしたら、今、書かれてないことが、もっともっとたくさん、書かれなければならないはずだ。そんな存在なんだよね」僕はアーメンと思いました。

幸い、チアの仲間の多くは、ポールさんたちの実像、真実の姿勢や情報にふれるにつれ、感動を覚え、感謝し、励まされる人々が多く与えられていきました。それまで偏見を持っていた人々で、「私の罪、誹謗中傷している日本人のクリスチャンの罪を許してください」といった謝罪や真摯な悔い改めのメール等が、よくチアにも届くようになりました。ある著名な牧師さんは丸森まで謝罪に出向き、「以前、ここは、自分の縄張りだ。連絡もなく、勝手なことをするな！など、ひどい対応をしました。すみません」と詫言いました。

イエスは、山上の垂訓で、以下のように教えます。

「義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。わたしのために、ののしられたり、迫害されたり、また、ありもしないことで悪口雑言を言われたりするとき、あなたがたは幸いです。喜びなさい。喜びおどきなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのだから。あなたがたより前に来た預言者たちも、そのように迫害されました。」（マタイ5:10-12）

## 調査から友情へ

— ポプ・ジョーンズ大学総長の来日

チェックが益と変えられ、友情になっていった展開もあります。2002年春、ポプ・ジョーンズ大学の理事会は、当初、聖書に立つ教科書出版を許可し、



チアや丸森の展開に大いに励まされたと連絡がありました。ところが、ポールさんや丸森がカルト的だと伝える方々がいて、チアから、翻訳権の撤回という要求が出されました。でも、ポップ・ジョーンズ3世総長は、偉いと思いました。「自分たちも、事実に基づかず、中傷された体験もあり、実際に自分で話を聞くまでは、判断したくない」と話してくださり、日本に10日間、来られました。総長は、個別に、様々な関係者の話しを、直接、インタビューしました。その上で、ポールさんや丸森のことを大好きになったとのことでした。

来日10日目の最終日、ホテルの会議場、開口一番、話したことは、「ポールさんたちに謝りなさい。懸念されたことで、問題となる点は無かった。また、ポールさんや丸森が行っているパンフレット配りなどの伝道、素晴らしいと思う。皆さんも、トラクトを作成して、やれば良いと思ったけどどうだろう？」でした。それで、懸念を伝えた方々が、最初にしたことは、ポールさんへのお詫びでした。「ポールさんがファナティック（熱狂的、狂信的）なリーダーだ」という懸念も寄せていたね。確かにその点はあると思う。燃えるような情熱、パッションということだね。でもね、創設者というものは、そのようなものだよ。使徒パウロも、ダビデ王も、良い意味で、ファナティックだと言えと思うよ。私の祖父のポップ・ジョーンズ1世もファナティックだったよ。私は違うタイプだけど。Hiroも、ある意味、ファナティックだと思うよ(^)。でも、新しいことを開拓していくためには、神様は、そのような情熱家を用いていくものだと思うよ」

ミーティング後、ポップ・ジョーンズ大学とチア・にっぽんは、さらに長期出版契約を交わし、既にスタートしていた、聖書、りか、世界史ほか、聖書に立つ教科書シリーズの出版ラッシュは加速していくことになりました。

アメリカに帰国後、ポップ・ジョーンズ3世総長は私に言いました。「ポールや丸森のみんなこと、私は、本当に感動した。アメリカに戻ってから、何度、メッセージの中で、紹介したかわからない！」

後日、ポールさんの元には、総長からのお礼と賛辞のメールが届きました。そのメールを僕が読んだ後、「これを捨てるよ。自分が自慢する材料にするといけないから」と僕の目の前で、消去しました。

このように謙遜なところも僕がとても教えられたところです。メモリアルデーには、そのポップ・ジョーンズ3世総長から、弔辞が届きました。その一部を紹介します。

#### 親愛なるブローマン家の皆様へ

私の友人や知人の中で救い主にお会いすることをだれよりも願っていたのはポールさんでした。この世で初めてキリストを知った時から、ポールさんにとって一番大切なことは、人々がイエス・キリストを知るようになることでした。

ビル・アベリアン出版部長と共に日本を訪れ、ポールさんやブローマン一族の皆様と過ごした日々を忘れることができません。私は皆さんの働きについて折々に語り伝えてきました。ポールさんが行くところどこでも、その生きざまを通して人々の心が燃え上がりました。主に対する皆さんの心は燃え、輝いています。そして福音に対する皆さんの熱い思いは、よき模範となりました。

主は必ず慰めてくださいます。ポールさんが召されたことを通して、私たちは改めて、「私たちに自分の日を正しく数えることを教えてください。そうして私たちに知恵の心を得させてください。」(詩篇90:12)というみ言葉を思い起したいと思います。立ち止まることなく前進しましょう。再び相見(あいまみ)えることを心から待ち望んでいます。

心から哀悼の念をこめて、

ポップ・ジョーンズ大学総長  
ポップ・ジョーンズ三世

上記の通り、「聖書2一心を育てるために」や、出版プロジェクトは、経済的にも少しずつ祝福されていきました。丸森の皆さんは、「ただ、助けたい」の一念で、経済面のみならず、皆さんがご存じの通り、チルミニの応援やセミナー講演、キャンプの支援始め、自分たちのミニストリー以上に、最優先で手伝ってくれています。支援をしたからといって、見返りを求めたり、コントロールしようとするのは、やはり、一切なく、そのようなことを、人間の欲望や罪の現れととらえ、忌み嫌いつつ。僕から、相談したり、知恵を求める時には、惜しみなく、時間を割き、一緒に知恵を絞ってくれますが。チアとしても僕としても、心からの願いとして、ぜひ、すべての面で、恩返しできるようにとの祈りを持っていました。神様は、そんな私たちの祈りに少しずつ、答えてくださいました。

#### 虚言

7、8年前、HSLDA（ホームスクーリング法律擁護協会）にも中傷や虚言を伝える人がいました。担当していたクリス・クリッカ弁護士は、後に「丸森が100%、チアの経済を出して、牛耳っていると聞かされていた。そして、Hiroのことを悪人だと思いかけてたよ」と笑って伝え、マイク・スミスHSLDA代表と共に、コンベンションのビデオメッセージ出演を引き受けてくれました（実際は、その頃は年間予算の15%ぐらいでした。もちろん、コントロールは一切無し。上記の通り、経済的にも、僕やチアが丸森に貢献できるようにと、祈っていましたが、僕が外部からグレイブシティ等に紹介できた仕事は、総額で約8000万円ほどのプロジェクト。映画制作は、まだ、道半ばで、本当の貢献はこれからですが、これまで7億円ほどの資金を紹介させていただく恵みにあずかったり、アカデミー賞受賞等の



制作陣との出会いほか、いくつかの貢献ができるように、神様がしてくれました。まだまだ、不十分ではありますが、チアや僕が丸森に、一方的にお世話になるだけでなく、神様は、恩返しチャンスや、その方向性を与えてくれています。それも、とても奇蹟だし、感謝だし、ますます、その方向で進めればと思っています。(※6)

(※6) ちなみに、ここ数年は、丸森の教会も、経済状況はとても厳しく、書籍出版等への経済的な支援は難しくなっています。長期不況の中で、チアの経済も、とても厳しいのですが、神様、祝福してくださり、以前のペースのように出版とかはできないけど、それでも、ほかにたくさんの支援の皆さんが与えられて三浦綾子さんの「したきりすずめのクリスマス」とか「決断する愛」とか、出版も許されています。書籍不況と言われる中でも、神様は、それぞれ完売状況にしてくださり、来月には、まず、「決断する愛」第2刷を上梓できるようにしてくれました。全ページ高画質のカラーで、印刷費用の高い「したきりすずめのクリスマス」、あるいはすでに3刷めに向かう「聖書が教える結婚講座」「聖書が教える親の道」ほか、数冊が売り切れ状態で、再刷の資金を貯金している段階です。「聖書に立つ教科書、書籍出版」は、爆発的な急成長とは言えずとも、この13年、多くの皆さんの助けと祈り、そして神様のあわれみの中で、一歩、一歩、堅実な歩みが、許され、チャーチ&ホームスクリーニングムーブメント推進への一翼を担ってくれている次第です。最初、他社からは、採算の見込みが無いと手を引かれた、その時代から、一生懸命支え、応援してくださったポールさん始め、丸森の皆さんには、ただ感謝でしかありません。

### 名声・支配欲への警戒

ポールさんたちの歩みに神様の召しを感じて、丸森や啓明小中に合流されたり、明泉やグレープシティで働かれている方々もおられます。メモリアルデーの式典では、そうした方々の活躍も顕著で、感謝でした。チアに、事前に相談があった場合は、僕は、ありのままの取材レポート(笑)をします。そのレポートを聞いて、後に合流されたご家族もいます。合流といっても、文字通り、啓明小中で勉学を共にしているご家族もいれば、日頃はホームスクリーニングをして日曜や伝道で一緒、あるいは、生活は関東で、伝道チームに短期・長期で加わるとか、形体は様々。全て、神様の導きの中で、それぞれの召しの中で、決断され、道開かれれば、加わっていくとい

う感じですが。ポールさんたちのモットーに、メンバー集めをしないということがあります。実際、伝道に生きる決死隊みたいな一面がありますので、中途半端な思いや姿勢では、続かないのです。でも、本当に困っていたり、導きが神様からのものだと思える場合には、皆で相談して、あたたかく、歓迎しておられます。

メンバー集めをしない、その姿勢の根本にあるのは、ポールさんがよく言っていた、自分を含め、人間の心に潜む「名声・支配欲への警戒」だと思います。聖書に照らし合わせ、自分の心の弱さや人からの名声等のつまらなさを見つめ、神様の赦しと導きに生きようとする姿勢、それがポールさんであり、また、聖書と照らし合わせて、そこに共感して歩んできた、丸森の皆さんです。そのような模範に、直接、出会う、歩みを共にしてこれたことは、神様からのプレゼントだったと思うし、どれだけの恵みであったことかと思えます。

ポールさんたちの歩みを見るときに、使徒ペテロのことばを思います。

「もし、あなたがたが善に熱心であるなら、だれがあなたがたに害を加えるでしょう。いや、たとい義のために苦しむことがあるにしても、それは幸いなことです。彼らの脅かしを恐れたり、それによって心を動揺させたりしてはいけません。むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求め人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしないさい。ただし、優しく、慎み恐れて、また、正しい良心をもって弁明しなさい。そうすれば、キリストにあるあなたがたの正しい生き方をののしる人たちが、あなたがたをそしったことで恥じ入るでしょう。もし、神のみこころなら、善を行って苦しみを受けるのが、悪を行って苦しみを受けるよりよい



チア・マガジンを読みながら



のです」(第一ペテロ 3:13-17)

メモリアルの式典で、僕の順番が来ました。僕は、ジョセフと一緒に登壇しました(※7)。

### 親友

ジョセフを連れて行ったのは、特に、明泉コーラスのお母さん方とか、グレーブシティの社員の皆さんとか、子育て真っ最中の世代の方が多くおられたからです。壇上からというよりは、同じ目線から、ポールさんが、よく話してくれた黙示録14章の地獄の恐さの聖句の現実を、キリストの愛と共に伝えたかったので、親子で力を合わせた方がいいと思いました。葬儀の場では、少し型破りかもしれないですが、ポールさんもご家族も、ユーモアにも機知にも富んでいるので、喜び、応援してくれるだろうと思って、実行してみました。ジョセフは、寝起きでしたが、大役を果たしてくれました。喪主のポール Jr.はじめ、みんな喜んでくれました。十三男くん曰く「ジョセフと一緒にスピーチ、なんかカジュアルな感じですごく良かった！」とのこと。特にノンクリスチャンの皆さんの上に、式全体を通しての福音が届きますようにと改めて祈りました。

そして最後に、ポール Jr.さんが挨拶しました。「皆

さんのチームとしての協力なしにはできませんでした」ということで、一緒に命をかけた伝道者の仲間たちの名前を読み上げました。その中に、僕の名前もあって、とても恐縮し、そしてポールさんと出会い、過ごせた13年の日々を神様に感謝しました。

会場を去る時に、ジャシュアさんが話してくれました。「最後の10年、稲葉さんは、親父の親友みたいな存在だったよね。ありがとうございます」。ジャシュアさんは、日頃、そんなにお世辞とか言うタイプではなく、とてもうれしいことばでした。ポールさんは、多くの人にそうであったように、第3の父的な存在とは思っていましたが、親友と言われたのは初めてでした。そのようには考えてもいなかったけど、とても光栄で、本当にうれしかったです。

### チア・団体バスにて

東京周辺のチアの皆さんは、団体バスで、朝6時30分出発。帰りは、雪のため、6時間ぐらいかけての旅でした。そのうち、4-5時間、メモリアル会の感動や、ポールさんたちの思い出や証しが尽きず、何回も、これも思い出した、あれも話したい、と、続くなど、みんなとても励まされて帰りました。神様に、そして、天国のポールさん、また、ご家族、

### ※7

稲葉「(今、抱っこしている)ジョセフ、ポールさんのメモリアルだ!と、張り切っていたのですが、式が始まったら、平安な雰囲気の中で、ことんと眠ってしまいました。でも、二人で一生懸命やったら、きっと、ポールさんも、ご家族も、喜んでくれるかなと思い、抱っこしてやります。ポール(Jr.)、いいですよ? (席上のポール、笑って「OK!」)

ジョセフは、ポールさんとは、8月末のお見舞いが最後だったのですが、いつもポールさんの写真見て、どうしてポールさん亡くなったか、話してました。それで今日は、二人でがんばって話そうと思います……」



ジョセフと共に、ポールさんとの思い出と感謝、そして、聖書の福音を分かち合う!

\*\*\*\*\*

7番目は、50年以上、ポールさんと一緒に伝道したディック・ノーマンさん「ポール兄弟は日本全国にイエス様のことを分かち合いたい、日本ばかりでなく、ほかの国も同じようにやりたかった。いつもこのことについて、話をされました。」





ポール Jr. さん（長男）、「皆さんのチームワークのおかげです！」

丸森の皆さんに、心から感謝でした。

赤津めぐみさんは、チア旗揚げ集会にご夫妻で参加され、それ以来のつきあいです。「私、お昼の時間のポールさんの一言、覚えてるの！ これは神様の働きです、一緒にやりましょう！って。なんか、励まされた。数年して、ポールさんのご自宅に伺ったことがあって、キッチンと4畳半1部屋でびっくりした。ポールさんは言った。『グレープシティとか商売だから、あれは立派にしておいて、もうかってるよ！と見せなきゃだめなのね。でも、我が家にもこんな大きな部屋を神様、与えてくれた。せつ子とは4畳半1部屋で十分。キッチンで、お客さんと食べるスペースもあるし』って」。飯島修・未穂さん夫妻は、「ポールさんからは直接、お話伺ったことないので。でも、マガジンのバックナンバー読んだり、CD聞いたり、聖書に従って生きる模範にすごく励まされて。今日も来て、すごく励まされた。岩手の新聞記事も良かった。あなたはどうしますかと問われている気がする」。伊澤総一郎・恵美さん夫妻は、「今日は、海外出張の予定だったけど、なぜか戻されて、敗北感があった。でも、メモリアルに招かれてたんだと、今、とても感謝している。チルミニ、どうしてここまでやってくださるか、とか、意味がなかった」。堀井卓チア・サポート・スクール校長・ユリさん夫妻「今日はポールさんの生き様を、自分に刻みつけたかった。チアとポールさんとの出会いは、本当に不思議だと思う。いつもHSを応援してくれて感謝。ポールさんたちの歩みを見てると、問題あっても、大丈夫って気がするんですね。チアにポールさんを遣わしてくれた神様に感謝だなー」。能登麻里スタッフ「今日は泣きっぱなし。今度は、私が十字架で死ぬ番だと思われた」。桑谷美穂事務局長「ポールさんの人生は、最期まで自己犠牲の人生だったと実感しました」。片岡明・郁子さん夫妻「今日参加して、自分を捨てた人生と、その特別な実を見させてもらったと思います。ポールさんの人生は、犠牲、そして、実践ですね！ 本当にホームスクーラ

ーを愛してくれた」。高森規文・さやかさん親子「夏に数週間、丸森で訓練を受けたとき、希恵さんに連れられて、ポールさんの部屋に遊びに行かせてもらってました。何か、そばにいて楽しくて、励まされる気持ちでした」。稲葉ジョセフ「ポールシニアが亡くなって寂しい。でも、復活して、天国で会えるよね。ジーザスも死んで、三日後に復活したし」。松岡淳裕さん「今、妻のみぎわからメールが来ました。『稲葉さん、今日、チアのみんなの気持ちを代表し、私たちのお礼を込めて、思い出を話してくれてありがとうございます！ 特に最後のことば、「ポールさんにも、ご家族にも、丸森の皆さんにも、感謝で、感謝で、感謝でしかありません」とのことばに実感と稲葉さんの真実の心が込められていて、それが伝わってきました』

### ホームスクーラーの大学 (PHC)、 全米大学4年生の学力テストで全米1位へ！ CIAとの仕事もスタート！

式を終えて、ロサンゼルスに戻りました。真祈史(20)が、バージニア州のパトリックヘンリー大学 (PHC) から、少したくましくなって、戻ってきました。勉強は大変だけど、とても楽しく、今月からは大学のコンピューター室で、アルバイトを始めるとのこと。PHCは、ホームスクーラーが80%あまりを占める大学で、チアと同じ、2000年春に創設です。この冬的全米大学4年生の学力テストで全米1位に輝きました (ETSとACLT調査)。ホームスクーラーたちの学力の高さを反映し、入学時の好成績は既に知られていましたが、卒業時点での全米トップという結果が知らされたことは初めてのことで。

戦略学科コースがあり、CIAやFBIとの関係が深く、スタッフを輩出していますが、CIAの機関誌の編集にPHCの学生たちが参加することになり、その第一号も刊行され、同大学のクレジットと共に、関係機関に配布されたとのニュースもありました。CIA、FBIとも、就職先としては、最難関コースの一つで、大学院修士課程以上の資格が必要で、幾重もの審査を経ての厳しい門です。また、その関係資料の編集業務に加わることも、大学として、かなりの信頼関係と能力的な評価無くしてはありえません。

約30年前には、法律違反では、...とお母さんが逮捕されたりしながらも、聖書の命令、神様の導きに従うとして、苦難のコースを進んだ先駆者たち。PHCは、そのホームスクーラーをも3倍強の倍率でふるいにかけて進んできて、上記の全米1位の学業、全米ディベート大会優勝の常連チーム、CIA、FBI、ホワイトハウスへの就職率やインターン率トップと、活躍の場を拡げています。日本でも、近いうちに、そのような実を残しつつ、福音宣教の勇士として用いていかれたらと心から祈られ、励まされる知らせでした。




 チャーチ&ホームスクーラーの未来に向けて  
 (2007年8月 チア・サマーキャンプ)

### 残された日を数えて、神様の示す地へ

新年になって思うこと、それは、私たちの人生は、70才、80才、、、と、限りがあるということです。残りは、50年なのか、25年なのか、5年なのか、わかりません。でも、聖書は、私たちに、残された人生の日を数え、今を有効に生きること、その知恵を主に求めることを教えます。ポールさんの召天を受けて、ポプ・ジョーンズ3世総長が弔辞を書かれたとおりです。

### 私たちに自分の日を正しく数えることを教えてください。そして私たちに知恵の心を得させてください。(詩篇90:12)

外なる人の体力は衰えていきます。自分の体力の衰えを克服しようと、この1ヶ月で、マラソンは、合計100キロ、鉄棒や平行棒けんすいは400回を楽しく、積み重ねられるようになりました。でも、ティーンや20代の頃の体力には、なかなか戻りません。もし平均年齢まで生きても、あと、クリスマスやお正月は、30回、もしかしたら20回ぐらいしか無いんだなーと思うと、何か、寂しい気持ちですね。でも、その空しさに終わらないことを、聖書は示します。内なる人は、日々新たに成長できると。キリストに新しく生かされた命、神様の導きを吟味し、洞察する力、事の善悪を見分ける力、悔い改める心、そして神様の主権とご計画に従いたいと思う心は、日々、新たに、成長し続けることができると。そして、見えない天国につながる道、永遠のいのちの大切さの理解が日々、新たにされていきます。

「ですから、私たちは勇気を失いません。たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。……私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。」(第二コリント4:16、18)

私たちが愛してやまなかったポールさんのことを思いながら、勇気を失わず、丁寧に信仰の対応しつつ、神様のことを子どもたちに、まだ見ぬ人々に伝えていければと思います。

「あなたは……わたしの示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなる者としよう。あなたの名は祝福となる。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される」(創世記12:1-3)

神様を賛美し、恐れ、何があっても感謝し、あわれみと赦しを感謝し、祈り、そして、大胆に歩いていければと思います。

映画制作の方が少しずつ、動きだし始め、3月中旬まで、ロサンゼルスで仕事の予定です。この12年、2ヶ月以上、LAにいることは初めてです。お陰様で、年末年始は、ジョセフらとロサンゼルス路傍伝道チームに加わることもでき、とても感謝でした。このような体験ができるのも、ポールさんら先達のおかげだし、また、チャーチ&ホームスクーリングの恵み、神様のあわれみだだと思います。新年も主のあわれみにより頼み、日数を数えつつ、次世代のためにも、信仰の歩みを丁寧に続け、悔い改めつつ、祝福と福音の光を届けるために用いてもらえたらと祈っています。

皆さんが多くのの人々への祝福となるように、皆さんへの祝福を祈っています。今年もどうぞ、よろしく願います。

チア・にっぽん  
 稲葉 寛夫

メモリアル会で配布されたポール・プローマンさんの思い出の小冊子を無料配布しています。

ご希望の方は、FAX (03-6862-8648)、またはメール (office@cheajapan.com) でチア・にっぽん事務局までご連絡ください。



# チア・コンベンション2013

関西：5月24日（金）、25日（土）  
東京：5月31日（金）、6月1日（土）

「父のこころを子に向け、子のこころを  
父に向けて（マラキ 4：6）」

**家族・教育の聖書への回復！  
どなたでも大歓迎です！**

最新情報は、チア事務局、またはチア・HP  
(www.cheajapan.com) までどうぞ！



**お待たせしました！ 第2刷 3月完成予定！**  
**「ファイアー・ストーム 決断する愛**  
**— 夫婦の危機を救う40日プラン」**

映画「ファイアー・ストーム」(全米4位)の中軸の書。  
全米300万部、2000書店で1年間ベスト3に入り続けた実践の書！

稀少在庫も見つかったので、今月もお申し込みいただけます！  
(限りあり。定価1,680円)

お申込みはチア・オフィスまでどうぞ！

FAX 03-6862-8648 メール office@cheajapan.com



## ～ 被災地からの手紙 ～

夢には見ても、思ってもみない贈り物に驚いています。今も思い出してくれている皆様に、感謝を申します。被災後、タピタビいらして野菜や果物を届けて下さり、私も一生忘れる事は有りません。

又、写真を送って下さいまして有難うございました。この写真は私たちがこの家に生きた五十年の証しです。一生大事に致します。

又、真珠の様に見えたお菓子（とても美味）は父ちゃんの仏壇にあげて言いました。私たちはどれだけ知らなかった人たちと巡り合って、声を掛けて戴

いた事か。みんな神様の心、父ちゃんの心と想い、感謝致しております。

電話ですぐにお礼をと思いましたが、つながりませんでした。

乱文乱筆で申し訳有りませんです。

本当に有難うございました。

お身体を大切にして下さい。（釜石 Aさん）

\*\*\*\*\*

サプライズプレゼントありがとうございます。こちらは皆、元気です。来年も良い年になりますように。お元気で。

（陸前高田市仮設住宅 Bさん）



いなちゃんの

## お薦め映画ライブラリー

これまでの70作品の詳細は[www.cheajapan.com](http://www.cheajapan.com) 映画ライブラリーコーナーへ

## 「カーズ2」

友を変えるよりも、変わるのは自分・純朴に人を愛し、

犠牲となる勇氣、日頃の努力



本当の成功、幸せとは何か、そうしたテーマで、大きな感動を呼んだ名作「カーズ」の続編。2011年6月、封切られたこの作品、2年半経った2013年2月に、チア推薦といたしました。その時間差には、理由があります。僕自身に、その良さがわかるのに、時間が必要だったからです。

2011年6月、当時、2才9ヶ月の息子ジョセフが、初めて映画館で見る映画として、この作品を選び、見に行きました。がんばって1時間30分は集中して観たものの、残り23分で、「外に出たい」との本人の希望で自主退室となり、僕自身も結論を観られませんでした。感動の前作に比べ、アクションが派手にはなったけど、心に問いかけるものが薄いかな、と、思いました。

当時の映画評論家の声も、そんな声も多かったのです。興収は、前作を上回る5億4000万ドル（500億円）と、大ヒット作品の仲間入りで、ホームスクーラーのA君からも「どうしてカーズ2は推薦しないの？」との声もいただきました。でも、メッセージ性が深くないかなということ、チアとしては推薦しないでいました。

それから1年半した今冬、4才3ヶ月になったジョセフとDVDで何回か、観ることになりました。何度か観て、いわゆるアクション系のシーン等への関心や偏見が払しょくされ、逆に、ストーリーに心を集中して観てみると、見れば見るほど、深いテーマが見えてきて、感動があふれるようになりました。それで、遅ればせながら、いなちゃん推薦とさせていただきますことになった次第です(^)。

ピストン・カップで大活躍したマックイーンは、つかの間の休息を過ごしていたが、その最中「ワールド・グランプリ」への参加を招待される。最初は参加に躊躇していたマックイーンであったが、イタリア代表のF1、フランチェスコの挑戦や、親友で古いレッカー車のメーターらの促しもあり、参加を決意する。メーターもレースに同行させることにしたが、マックイーンは、少し不安を感じる。

不安は的中し、メーターは東京のレセプションで笑いものとなり、マックイーンは、恥に思う。レース中、メーターの一言を勘違いして、マックイーンは優勝を逃し、メーターを罵倒、メーターは傷つき、チームを離脱し、帰国しようとする。このグランプリには、エネルギー会社の陰謀が仕組まれていて、英国スパイのフィンらが調査中。そこにメーターが、ひょんなことから加勢することになり、メーターの知識と素朴な勇氣が用いられていくことになる。

一方、マックイーンは、親友メーターを失ってから、チームメート・友人の大切さに気づき、相手を変えようとしていた自分の愚かさに気づき、変わるのは自分であると納得する。そして……。

「トイ・ストーリー 1-3」「バグズ・ライフ」「ファインディング・ニモ」「Mr.インクレディブル」「カールじいさんの空飛ぶ家」ら名作を生み出した社長以下、クリスチャンが要職をかためる大ヒット映画制作プロダクション「ピクサー」。アカデミー賞長編アニメ賞だけで6度輝き、大ヒットを飛ばすなか、ディズニーアニメ部門を対等（ほぼ吸収）合併し、社長等になり、事実上、ディズニーアニメを傘下に抑え、その中で本作品も誕生しました。

作品の底流には、聖書のメッセージがちりばめられています。他者を変えようとする自分は、何者なのか。思い上がり、変わるべきは自分。そして、感謝すべき友。メーターの、誰にでも純粋に愛を向けていく純朴な心、用いられていく日頃の訓練・知識、そして勇氣。チーム力の大切さ……。

大切なことは、お金を得ることや、競争に勝つことではない。許しの大切さと自己犠牲……。何度か、繰り返し見て行く内に、聖書のメッセージに裏付けられたテーマが、心の中にやさしく響いてくる作品です。カーチェースやスパイが追い詰められる闘いのシーン等あり（マイルドにおさめられてはいる）。子どもたちと繰り返し観られるクリーンな作品である点もお薦めです。前作「カーズ」を観てない方は、まず「カーズ」を観て（NL114号で紹介）、それから、「カーズ2」を観ると、一層、楽しめると思います。



# 試写会 受付中!

## 大好評! 「ソウル・サーファー」の試写会&DVD販売会 (無料、少人数OK)、3月末まで。お急ぎください!

### 「全米4位」、「見て良かった映画1位(日本)」

「ソウル・サーファー (今年6月に全国上映)」が、チア・にっぽんが正式な窓口となって、ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン社に申請する道が開かれました。「ファイアー・ストーム」(ソニー)「フェイスング・ザ・ジャイアント」(ソニー)「アメイジング・グレイス」(ハピネット)に続く、第4弾です。まずは資料をご請求ください。これまでの3作品同様、既の実施済みの教会、団体から多くの感動と祝福のレポートが多数、寄せられています。皆さんの教会でも、4作品からの大いなる福音伝道の業が、広がっていくことを心から祈らせていただきます。詳細・問い合わせはチア・にっぽんまで (Eメール: kuwatani@cheajapan.com FAX03-6862-8648)。申し込み詳細は、HPでもチェックできます。www.cheajapan.com。お申し込みをお待ちしています!

聖書的・家族的作品、開催して良かった!という声、多数寄せられています(下記&チアWEB www.cheajapan.com をご覧ください!)

少人数でもOK、無料です。主催してみませんか。教会などの公の場で視聴することは、残念ながら、違法行為です。許可を得ての上映には、通常、数万円から十万円以上のコストがかかります。でも、一人でも多くの方に見せたい聖書的な作品があります。正式に、しかもコストをかけずに上映の場を!ということで、与えられた方法が、「無料試写会+DVD販売会」という方法です。DVDの販売案内が映画配給会社と交わされた条件ですが、ノルマはありません。それで、下記の教会、クリスチャン団体で好評のうちに、展開が進んでいます。与えられた4作品は、どれも、励まされ、福音の窓口となる優秀な作品です。このチャンス、逃すことなく、皆さんもトライされませんか?

### 【試写会 主催者からの声】

・「アメイジング・グレイス」の試写会のご配慮、ありがとうございました。素晴らしい内容に大きな感動がありました。(越谷キリストチャペル 鈴木博程)

・「アメイジング・グレイス」、悪天候にもかかわらず、十数名の未信者の方が来られて感謝でした。信者にとっても励ましになる映画でした。「ソウル・サーファー」は天気も晴れて、未信者14名、合計40名で観れ、好評でした。どちらもありがとうございました。(弘前キリスト集會 栗林理人)

・未信者の方が「ソウル・サーファー」の試写会に来られ、感動したと言って帰られました。特に、Aさんは、夏の伝道会以降、2回目。映画をきっかけに、たくさんのお話を交わしました。DVDも購入されました。今後の求道と救いが楽しみです。

高齢の方が多き教会ですので、夜の試写会には出足が悪いだろうという予想はしておりました

が、少ない人数の割には未信者のリピーターが来てくださいました。また、会員の1人の婦人が、ベサニーさんの証に心から感動し、大きな励ましをいただいたと、試写会後に証されました。

私もベサニーさんの文庫本の方を、私たちの教会が支援している石巻の14歳の中学生に送りましたら、大喜びで読み始めてくださったと、お母さんから報告をいただきました。こちらでも今日、2人の婦人が文庫本を買ってくださいました。お働きを感謝いたします。(藤井寺キリスト教会 池田弥生)

・神様の祝福で、2日間で56名参加、DVDも完売でした。ありがとうございます。(帯広・中札内初穂キリスト教会 馬淵邦光)

・「アメイジング・グレイス」、とても好評でした。参加人数は22名で新来者が10名ほどありました。(青森あすなる福音教会 芦名昌利)

・「ソウル・サーファー」参加者は26名、うち未信者が17人でした! とても好評でした。(四日市キリスト教会 永瀬寿子)



試写会 「ファイアー」「フェイスング」「アメイジング」「ソウル」

感動の声、続々！開催してみませんか？

(無料！少人数OK！) お申込みはチアまで！

＜今後の予定＞

「ソウル・サーファー」

- 2月10日(日) 北海道 ICF教会  
TEL 011-669-3038
- 2月10日(日) 埼玉 蕨キリストの教会  
TEL 048-447-4458
- 2月17日(日) & 19日(火) 富山  
歌の森聖書バプテスト教会  
TEL 0766-56-6503
- 2月17日(日) 埼玉 KFG志木キリスト教会  
TEL 048-472-6725
- 2月20日(水) 奈良 香芝ゴスペルチャーチ  
TEL 0745-77-0379
- 2月24日(日) 群馬 桐生キリスト教会  
TEL 0277-22-7593

- 2月24日(日) 東京 柴又キリスト教会  
TEL 03-3627-2301
- 3月9日(土) 神奈川 主都福音キリスト教会  
TEL 044-966-5344
- 3月21日(木) 千葉 櫛のホール小ホール

「ファイアー・ストーム」

- 2月5日(火) 千葉 小倉台キリスト教会  
TEL 043-231-0877
- 2月10日(日) 長野  
飯田馬場町教会東中央グレースチャペル  
TEL 0265-24-1105

＜開催いただいた教会・団体＞

「ファイアー・ストーム」

- 東京 久我山キリスト教会
  - 東京 調布バプテスト・テンプル
  - 兵庫 広畑キリスト教会
  - 兵庫 神戸西バプテスト教会
  - 北海道 中札内初穂キリスト教会
  - 大阪 寝屋川キリスト教会
  - 神奈川 藤沢オリーブチャペル
  - 兵庫 御影神愛キリスト教会
  - 兵庫 伊丹聖書教会
  - 山形 米沢興譲教会
  - 山形 シオンキリスト教会
  - 埼玉 東京バプテスト教会 三郷キャンパス
  - 長野 中野キリスト教会
  - 北海道 キリスト兄弟団 美幌教会
  - 奈良 奈良西和教会
  - 神奈川 主都福音キリスト教会 ほか
- 計101箇所

「フェイスング・ザ・ジャイアント」

- 青森 弘前キリスト集会
  - 大阪 JECヒルズチャーチ
  - 埼玉 KFG志木キリスト教会
  - 神奈川 藤沢オリーブチャペル
  - 静岡 インマヌエル総合伝道団浜松キリスト教会
  - 東京 調布バプテスト・テンプル
  - 埼玉 東京バプテスト教会 三郷キャンパス
  - 千葉 千葉グレイスチャーチ
  - 山形 米沢興譲教会 ほか
- 計15箇所

「アメイジング・グレイス」

- 富山 新湊キリスト教会
  - 京都 宇治福音自由教会
  - 埼玉 東京バプテスト教会 三郷キャンパス
  - 岡山 西大寺キリスト教会
  - 北海道 中札内初穂キリスト教会
  - 北海道 帯広栄光キリスト教会
  - 神奈川 京浜キリスト教会
  - 大阪 寝屋川キリスト教会
  - 神奈川 クロスロードバプテスト教会
  - 京都 宇治バプテストキリスト教会
  - 埼玉 KFG志木キリスト教会
  - 大阪 大阪みぎわチャペル
  - 東京 弥生台キリスト教会
  - 青森 弘前キリスト集会
  - 兵庫 白い風
  - 埼玉 越谷キリストチャペル
  - 福岡 久留米聖書教会
  - 青森 あすなろ福音キリスト教会 ほか
- 計26箇所

「ソウル・サーファー」

- 長野 チア白馬セミナー
- 大阪 JECヒルズチャーチ
- 福岡 久留米聖書教会
- 神奈川 リビング・ウォーター・チャーチ
- 北海道 中札内初穂キリスト教会
- 北海道 帯広栄光キリスト教会



# チア 白馬セミナー2012 アンケート

## \*\*\*\*\*大人アンケート\*\*\*\*\*

・2回目の参加ですがとても励まされました。色々な不安や悩みがありましたが、神さまからの希望と喜びを再確認でき、感謝です。家に帰っても忘れないよう、CDを送っていただいて、希望と喜びをいただいてホームスクーリングしてゆこうと思います。(匿名希望)

・中高生の親の会では、なつかしい家族と再会、お話ができて本当に感謝でした。我が家のホームスクールはもう10年になるんだなあ、と主の恵みを豊かに頂いて成長させて頂いていることを、改めてかみしめる時となりました。必要なものはすべて主が備え、与えてくださいました。これからも、主を信頼し歩んでいきたいと願います。中高生から成人へと教会から若者が減っている中で、今、豊かに用いられています。全て、感謝です。ジョイス・イノウエさんの分科会、レイチェルさんの分科会、どちらも、もっと話が聞きたかったです。(匿名希望)

・2回目の参加です。講演、分科会、各地から参加された方々とのお交わりの中で、たくさん与えていただきました。道筋が見えてきたようにも思います。稲葉さん、スタッフの皆さん、丸森チームの皆さんの多くの犠牲に心より感謝致します。ポールさんが召されても最後まで私達のために残ってくださったブローマンさんファミリーの皆さんに、心より感謝致します。(東京 飯島未穂)

・初めての参加でした。情報量の多さに圧倒されました。参加して良かったです。自分の住む場所から連絡の取りやすい人との出会いもありました。大変気配りがあって良かったです。ジョイスさんの分科会はとても良かったです。(匿名希望)

・3年ぶりの参加でしたが、新しくお会いする方ばかりで、HSに対して興味を持つ方、したいと思う方が次々に起こされているんだなあと驚きました。



参加しやすい時間割り、分科会分けでした。オプションで初めてとんぼ玉に参加しましたが、とても良いおみやげになりました。子どもも楽しんで作っていました。(匿名希望)

・とても良かったです。励ましを受けました。レイチェルさんの分科会「愛する。笑う。そして学ぶ」がとても良かったです。ピリポさんの「しつけの心得」感動しました。主の愛ですね！(匿名希望)

・今年も参加でき、感謝です。普段会えない方々と会って話げできました。講師の方々が素晴らしく、もっとお話を聞きたいと思いました。特に学習障害のことは目からウロコのセミナーでした。こうあらねば、が強い人間で、子どもたちを追い詰めていたと思います。自分自身が変わることを示されました。また新しくスケジュールを見直して再出発です。ありがとうございました。(千葉 井澤紋庸)

・今回はじめて参加しました。私たちの家の窓をきれいにし、その窓を通して、多くの人々が「私たちの家庭の土台は何か？」見ることができるようになる窓そうじをするチャレンジがあたえられました。イノウエ先生の講演がすばらしかったです。子どもを見る角度(自分の視点ではなく、イエス様の目で…)が変えられました。(沖縄 根間俊一郎)

・3年ぶりに参加できて本当に良かったです。ジョイス・イノウエさんの分科会がとてもパワフルで励まされました。彼女のセッションを通して神様の視点を持って子どもを見るのがいかに大切か痛感しました。そして、サタンのウソにみことばの刃で対抗する事を忘れないでいたい。日本にいるキリストの侍として。(長野 リズデン恵)

・「ホームスクール中にイライラしたり怒ったりしてしまう時、どうしたらそのストレスを解決できますか」という誰かの質問に、講師の方が「まず自分を責めないで、赦してください」と言われ、大きな



恵みと赦し、解放を味わいました。一言でいうと、「恵み」を味わい、いやされ、自由にされた白馬でした。子どもへの愛と憐れみ、喜びが戻ってきました。

ジョイス先生（の分科会）、またレイチェル先生の「愛する・笑う・学んで身につける」に出ましたが、すべて素晴らしかったです。神の視点で見るクリスチャン的なアプローチと、非常に実践的で具体的なアドバイス、助け（ADHDの子は課題を小分けにして、出来たらほめてあげるとか）をたくさん学べ、信仰的にも実際的にも大いに助けられました。稲葉さんの基調講演もとてもよかったです。ソウルサーファーも良かった。中高生をもつ親のディスカッションもとても励まされました。他の親御さんと知り合えたのも良かったです。（匿名希望）

・この白馬セミナーが実現するのにどれ程多くの労が積まれたことか…想像に及びません。神様がチア・にっぼんに大きな期待をされていること、私たちが、チア・にっぼんの働きを通して神様から期待されていることを感じる事ができた時でした。日々、変えられたい（本心は今すぐにでも大きな変化を与えられたいと願っていますが）という願い、祈りを、希望を失わずに続けていきたく改めて思いました。本当にありがとうございました。（兵庫 竿代矢須子）

・今回初めて2日目からの参加となってしまった事もあって、あっという間に過ぎていきました。心にとどまるように受けたみことば・導きをかみしめなおしたいと思います。普段は世の中で働いているので、世の価値観に浸され、見えていたものも見えなくなっている。目からうろこが落ちたと思わされることも多かったです。（神奈川 藤本泰俊）

・最近ホームスクール以前に、自分自身が主の前に忠実であるのかどうか、また、日々の忙しさの中で本質を見失い、救われた喜びをどこかへ置き忘れてしまったように感じていました。1泊の参加だったため、あまり分科会など聞けませんでした。神さまから今の私に必要な福音のエッセンスを頂きました。やっぱり参加して本当に良かったです。子どものしつけなど、これまでの分を取り戻すのに霧の中を歩むような思いですが、神様の助けを求め、知恵を頂いて進んでいこうと決心しました。神様なしでは子育てもホームスクーリングも、できるわけがないのに、いつのまにか、神様でないものに頼ろうとしていたことに気がつかされました。（匿名希望）

・いつも励まされる。来られて良かった。HSが良い、HSをすべきことを改めて確信できる。HSは、みことばが基礎であることが再確認できた。（山形 高倉新喜・聡子）

・毎年のセミナー感謝です。今年もとても良いセミナーと分科会でした。中高生の親が分かち合うとき

が与えられたことが良かったです。レイチェルさんの教えからたくさん教えられました。（匿名希望）

・とてもとても楽しみにしていました。同じ目的を持った仲間たちが、たくさんいる所で、おいしい食事、おフロ、講演を聞けることに……故郷に帰ったような安心感がありました。丸森の人達とも会って話せることがうれしい！ 事前にチアマガジンを熟読してのぞみました。期待どおり、反省させられ、考えさせられ、励まされ…今後のHSにたくさんのチャレンジがありました。様々な講演と分科会はどれを聴いてもみんなこんながんばっているのが…すごい！ 毎回謙遜にさせられます。（匿名希望）

・感謝の一言です。申し込みがうまくできなかつたり、子どもが体調を崩したりとトラブルもあり、またホームスクーリングは我が家には無理という思いが夏まではあったのに、何故か家族そろって参加することができ、本当に神様に感謝します!!と心の中で叫んでいました。ありがとうございました。ポールさんの召天にかかわらず、犠牲を払って参加くださった丸森の皆さんのお働きにも感謝です。初めて参加しましたが、全て良かったです。特に第4分科会のジョイス・イノウエ師のメッセージと最後、聖霊様に導かれるままに一人一人悔い改めの祈りがあり、この分科会に参加できたことを本当に感謝しました。聴きたい分科会ばかりで寸前まで迷っていました。カーレースも親子で楽しみました。来年も是非！チルドレン・ミニストリー、子ども達は本当に楽しかったようで、帰りの車で「また行きたい!!」と言っていました。ありがとうございました。（匿名希望）





・今回も、神様が私を必要なところに導いて下さいました。ジョイス先生の全ての分科会に出られたことを、本当に感謝しています。「学習障害」という病名がつかなくても、色々な場面で困難を感じる子どもは多くいると思います。私も、特に息子との関係の中で、まず『神様が彼を完ぺきに創られた』ことを認めて、そこからスタートすることを改めて教えられました。ホスピタリティーあふれる、素晴らしいジョイス先生を日本のHSへ送って下さった神様に感謝しています。(愛知 森山有佳子)

・今回も大変にお世話になりました。どの講師の方を通して「困難な中でも主を見上げよう」と励まされたような気がします。特に、ジョイスさんが「皆さんがここにいる事は決して偶然ではありません」「私達は弱い時こそ強いのです」と繰り返し語ってくださったのがとても励ましになりました。

今回は特に、娘がサポートスクールメンバーとして賛美できたのも感謝でした。元々、舞台上上がるのは苦手で、水曜日の練習が終わった時点でも「私、本当にやるの?」とかなり後ろ向きでしたが、励まして祈って、当日はお姉さん達にも励ましてもらって、元気に賛美できて本当に良い時が持てて嬉しかったです。娘は、チルミニを楽しんでソリして食べて…、いつもの200%ぐらい活動しました。

お食事も地元の食材が増えてましたか? 去年とはまた雰囲気違っておいしかったです。主人の深夜バスも感謝でした。(匿名希望)

#### \*\*\*\*\*LITアンケート\*\*\*\*\*

・LITに初参加できて本当に良かったです! ナタンさんの話もとても良かったです。クッキー作りとか、つかれたけど楽しんでお手伝いさせて頂きました。新しい友達もたくさんできてよかったです! 本当にありがとうございました。(森山佳音 13才)

・小学6年生からホームスクールを始めて、チアのコンベンションに参加してから、ずっと白馬にも参加したいと思っていました。沖縄に引っ越したのでなかなか来られず、ホームスクーラーにも会えず…。つらかったけど、5年たって、今回初参加できて本当に嬉しかったです! 神様はなぜ白馬に行かせてくれないのかな…と思っていたけど、忍耐と、信じ続けることを学ばされていたんだなあーと分かりました! 宮古島、初のホームスクーラーとして頑張ります! LITも出来て良かったです。

タイムキーパーをしたり、子どもたちと工作するのが楽しかったです。分科会に参加しながら、LIT(タイムキーパー)ができたので、またしたいです。楽しい白馬セミナーをありがとうございました。(根間由莉 16才)

・白馬に今回で3回目、4年ぶりに、初LITでの参加でかなりナーバスになっていました。でも、録音係になって、たくさんの分科会に参加してお話を聞いたり、同い年のホームスクーラーとホームスクールで良かったこと、葛藤などを分かちあえたりできたのは最高の思い出です。私は、ホームスクールを通して自分と家族と、生きることと、神様をすなおに愛することができました。いろいろ辛いことがありましたが、ホームスクールに踏み出せて本当に良かったと改めて思いました。

ソウルサーファーの試写会は、12時まで起きていた甲斐がありました!(川嶋ほさな 17才)

#### \*\*\*\*\*子どもアンケート\*\*\*\*\*

・たのしかった。らいねんもともだちとあそびたい。(リスデン レイチェル あや)

・とんぼ玉がたのしかった。らいねんはカーレースがしたい。(成田慧 10才)

・今年も白馬で、いろいろなことができて楽しかったです。イエスさまのおはなしをきいたり、おもいっきりあそんだり。来年も楽しくやりたいです。(森山満音 8才)

・全部とても楽しかった! 初めて参加したけど、みんなやさしくしてくれてうれしかった。来年も行きたいです! チアにつぼんのみなさんありがとうございました!(馬場愛実 10才)



## ♪ ボイス&メール ♪ Voice & Mail

マガジンとニュースレターが届きました。

皆様の神様へのまっすぐな証がきけ、励ましと共に自らを省みることでもできました。チアさんの出される書物はどれも神様にまっすぐなものでも感謝しております。スタッフの方々はいろいろなご苦勞もあるかと思いますが、本当にありがとうございます。

\*\*\*

昨日メールを送らせていただいた後、プローマンさんの訃報を知りました。明日のお別れ会はきっと希望に満ちた素晴らしい時となるのではないかと思います。

たくさんのプレッシャーや不安のあるなかで神様を信頼し神様に従っておられるホームスクーラーの方々やプローマンさん方やスタッフの方々にいつも励まされています。

神様が置かれているそれぞれの境遇でみなさん困難なこともあるかと思いますが。そのなかでも神様に信頼されておられる姿を知れることは本当に幸いです。スタッフの方々もいつも親切で柔軟な対応をしてくださり本当に尊敬します。

今日も皆様が平安に包まれ前進されますように。  
(Aさん)

ここ1年、韓国人の宣教師が何組か私たちの住むマンマー・マンダレーに来ました。その宣教師たちの中で、ホームスクーリングをしている家庭が、私たちの家庭を含めて4つあります。

P先生の家族は、最初は子どもたちを英語のインターナショナル・スクールに通わせていました。でも、悪い友達の影響で、長男(11歳)の信仰と性格がどんどん崩れていくのを見て、危機感を感じていました。

そんなとき、私たちの家でのクリスマス会に奥様が来て、雄基と愛希が降誕劇をしたり、愛希が救いの証しを発表したり、みんなで一緒に奉仕を手伝ったりするのを見て、チャレンジを受けました。それでつい最近、彼らもホームスクーリングを始めました。

私たちは、親同士も良い関係を保ち、お互いに情報を交換し、励まし合いながらやっています。ホームスクーリングが祝福されて、さらに広がっていきますように、どうかお祈り下さい。

(マンマー 伊藤ソジョン)

「したきりすずめのクリスマス」(作:三浦綾子、チア・にっぽん刊)を公演してきました。

函館少年刑務所の慰問

函館の孤児院

函館の教会で数回

青森の幼稚園、保育園、老人ホーム

被災地の仮設住宅で数回

中野ゼロホール

愛知県の教会で数回

愛知県の障がい児施設のコンサート

沖縄の幼稚園

教会やキリスト教教育ではない場所での公演が半分程ありました。主役のいないクリスマス会に参加し、したきりすずめのクリスマスのストーリーによってクリスマスの主役は誰なのか伝える事が出来ました。作品を通して、若い小さな畑や年数の経った畑に種を蒔く事が出来ました。福音を必要としている方々に届ける事が出来、とても貴重な時間を過ごしました。昨年もしたきりすずめのクリスマスに大変お世話になりました!!

今年のクリスマスシーズンも道が開かれましたら公演したいと思っております。

本当に素晴らしい本をありがとうございます!!  
(須貝まい子)

今年の春よりホームスクーリング計画中です。一つ一つを祈りながら進めていくことができるように、祈りに覚えて頂けたら幸いです。

(Bさん)

今回はうれしい報告をさせていただきます。

娘は、グレイブシードを始めてから、ほぼ1日も休まず30日周期で学びを進めて、レベル27に入ったところですが、去る12月24日に行われた大阪府枚方市のキッズイングリッシュスピーチコンテスト(近隣の市も含む)において6年生の最優秀賞を頂きました。11月の1次審査を経て各学年10名の中にエントリーされ本選に臨みました。結果はトロフィーと賞状、豪華な賞品がいただけました(審査は関西外大の先生たちです)。

娘と申し込んでから「御心ならエントリーされ賞を頂きイエス様に捧げたい。主の栄光を表したい」「ホームスクーラーの代表として」と祈ってきて、本当に主がなして下さったと御名をほめたたえました。

更に、このコンテストのあたりから特に表現力や発音のレベルが上がったようです。これからも「主のために、使える英語」を目指して頑張れるよう励ましていきたいと思っております。

(Cさん)



昨年末に放送しました「ソウル・サーファー」のTV番組も好評で、多くの感謝なレスポンスが与えられました。これをきっかけに導かれる方が起こされるよう、祈っております（レスポンスの一部をまとめたものを同封していますのでご覧ください）。また良い映画等ありましたら、ご紹介ください。お願いいたします。

お働きがこの年、ますます祝福されますよう心よりお祈りしております。

（ライフ・ライン制作 山本美砂子）

●お母さんと映画を観に行きたかったけど、うちの近くの映画館ではやっていませんでした。ベサニーみたいに、強いクリスチャンになりたいです。ライフ・ラインは教会に行く前に見てます。稲葉さんも強いクリスチャンだから好きです。たまーに、稲葉さんが出る時は、すごく楽しみです。（神奈川相模原市 小6）

●稲葉氏の熱心な紹介に心打たれました。私自身、高校生時代からサーフィンをしているため、主人公の様に片腕を失くしたと想像すると、言葉がありません。しかし、神の教えに身を委ね、決して諦めなかった主人公を想うと、私を含めあらゆる境遇の人々に感動と希望を与えた事は間違いありません。番組途中で記された聖書の言葉も、私の心に染み入りました。私はクリスチャンではありませんが、意味ある言葉には力があると確信しています。これからも素晴らしい番組を作り続けてください。（東京都葛飾区 男性）

●初めて見ました、ライフ・ライン。クリスチャンの視点が、普段見ている映画紹介やハワイのサーフ番組と違って興味深かったです。土曜日の朝たまたまソウル・サーファーに目が留まり、番組最後まで見てしまいました。（千葉県柏市 男性）

カードとお便りをありがとうございます。昨年は仕事面で大きな変動があり、前半期はあわただしく、本当に会費を納めたのを忘れていました。仕事が落ち着いてきた秋に、「忘れていた！」と2度目を送ってしまいました。ご連絡いただいた通りです。

チアにっぽんと出逢い、私自身の信仰も大きく一新させられました。お茶の水で発足した時、長男を連れ、連絡しあえる仲間作りもできるサークルかと勘違いして、第1回コンベンションに参加しました。しかし次男もチャースクールへ、信仰へ導かれ…の十数年でした。とにかく感謝です。（Dさん）

昨年は息子と2人で白馬に参加させていただき、祈られました。

昨年12月5日に第三子が誕生しました。イザヤ書61章7節から、主から「二倍の譲り」を覚え、譲二（じょうじ）と名付けました。将来、海外で大いに主に仕えてもらいたいです。長男4歳、長女2歳、二男0歳の5人家族になりました。



長男の方は、1月から、育児のための時間短縮を会社に申請し、毎夕食（6時）には家に帰るようにしました。それで、食後に聖書の時間と、日中の、ひらがなと数字と英語の文字を書く宿題のチェックをします。

日中は妻と2歳の妹と一緒に、グレープシードをやり、宿題の書く練習をしているようです。グレープシードはブラウン（9）まできて、オレンジ（5）の復習中です。

聖書の時間は、以前は絵本を使った読み聞かせでしたが、今年からは、大人と同じ聖書を使って、3節くらいずつ一緒に読みながら書いてある意味を味わって「こころを育てるために」の1ページめをゆっくりやっています。

4月からは、長男に対しては、何かのセレモニーを企画してホームスクール入園を自覚して楽しめるようにしたいと思っています。

手探りながら、楽しくやっついこうと思っています。お祈りをお願いいたします！

（東京 平岡真実）

ハレルヤ。いつもありがとうございます。4月からはいよいよ長女が中学生に!! 引き続き、小学校課程6年間のHSを守って下さった主にますます期待し、抛り頼みつつHSで進んでゆきます。

子ども共々喜びつつ準備している今、とても感謝です。



2012年9月22日第5子となる次男、共也（ともや）が誕生しました。これからもよろしくお願いいたします。（神奈川 高倉正・幸子）

## チア・にっぽんカレンダー

- チア・コンベンション2013  
関西 5月24日(金)～25日(土)  
東京 5月31日(金)～6月1日(土)
- チアにっぽん関東ミニ学習会(予定)  
7月12日(金) 10時30分～15時30分  
◆国立オリンピック記念青少年総合センター
- チア・サマーキャンプ(予定)  
8月8日(木) -10日(土) ◆仙台明泉学園(宮城)
- 白馬セミナー  
11月21日(木) -23日(土)  
◆ホテル・グリーンプラザ白馬(長野)

阪神タイガース  
マートン選手、スタンリッジ投手の  
野球教室と証し in 沖縄

日時 2月16日(土)  
具体的な時間、場所は未定  
(詳細、問い合わせは 藤井一朗さん [チア・にっぽん  
体育講師] まで。ichifuji51@hotmail.com )

医療法人社団

 マリヤ・クリニック

内科・小児科

〒263-0043  
千葉市稲毛区小仲台 6-19-19 Myビル  
Tel: (043) 287-2624 Fax: (043) 287-2610  
<http://mariyaclinic.com/>

柏崎良子院長著  
低血糖症と精神疾患治療の手引  
第3版販売中

問い合わせ: 株式会社ヨーゼフ



株式会社 ヨーゼフ

柏崎良子・柏崎久雄共著  
神のデザインによる医療  
絶賛販売中

問い合わせ: 株式会社ヨーゼフ  
Tel: (043) 207-6035  
FAX: (043) 207-6036  
メール: info@yozeff.com  
<http://yozeff.com>



11月会計	
収入	
献金	1,369,865
書籍・教科書	124,779
会費	199,000
広告	421,189
DVD/CD、ビデオ等	198,851
その他	749,954
	3,063,638
支出	
事務局経費	1,013,970
通信運搬費	62,116
交通費	27,180
印刷費	1,247,874
DVDプロジェクト	210,000
出版プロジェクト	397,215
	2,958,355
残高	105,283
前期繰越	-193,032
翌期繰越	-87,749

12月会計	
収入	
献金	1,489,710
書籍・教科書	91,273
会費	95,000
広告	221,666
DVD/CD、ビデオ等	270,199
その他	177,963
	2,345,811
支出	
事務局経費	1,112,234
通信運搬費	119,021
交通費	53,890
印刷費	675,774
DVDプロジェクト	247,531
	2,208,450
残高	137,361
前期繰越	-87,749
翌期繰越	49,612

☆尊い献金、会費、義捐金の送金を、  
心から感謝いたします。



チア・にっぽん事務局  
〒189-0013 東京都東村山市栄町1-5-103  
TEL 042-318-1807 メール対応FAX 03-6862-8648  
メール office@cheajapan.com  
[www.cheajapan.com](http://www.cheajapan.com)